

# インストールおよび移行ガイド

*Sun™ ONE Web Server*

**Version 6.1**

816-6752-10  
2003年8月

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054 U.S.A.

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、Sun ONE、iPlanet、およびすべての Sun ONE ベースのロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Netscape は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。

**Federal Acquisitions: Commercial Software- Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions**

本書で説明されている製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。Sun および Sun のライセンサーの書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれ限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

# 目次

<b>このマニュアルについて</b> .....	7
このマニュアルの使用方法 .....	7
表記上の規則 .....	8
ほかのマニュアルの使用方法 .....	9
製品サポート .....	11
<b>第 1 章 Sun ONE Web Server 6.1 の新機能</b> .....	13
<b>第 2 章 Sun ONE Web Server インストールの前に</b> .....	17
サポートされているプラットフォーム .....	17
必要なパッチ .....	19
サポートされているブラウザ .....	19
ハードウェアおよびソフトウェア要件 .....	20
すべてのプラットフォーム .....	20
UNIX/Linux .....	20
Windows .....	20
その他の技術的要件 .....	21
サーバー用 DNS エイリアスの作成 .....	21
サーバーの UNIX および Linux ユーザーアカウント .....	22
サーバーの Windows ユーザーアカウント .....	23
一意のポート番号の選択 .....	23
インストールの概要 .....	24
<b>第 3 章 UNIX への Web Server のインストール</b> .....	27
UNIX プラットフォームへのインストール .....	27
適正なユーザーでのログイン .....	27

ファイルの展開	28
Web Server CD からのインストール	28
ダウンロードしたサーバーのインストール	29
setup の実行	30
標準またはカスタムインストール	30
高速インストール	33
複数のマシンへのインストール	36
テンプレートインストールの使用	36
サイレントインストールの使用	39
Sun ONE Web Server のデフォルトのディレクトリ	42
UNIX でのアンインストールの実行	43
<b>第 4 章 Windows への Sun ONE Directory Server のインストール</b>	<b>45</b>
Windows へのインストール	45
ファイルの解凍	46
Sun ONE Web Server, Enterprise Edition CD からのインストール	46
ダウンロードしたサーバーのインストール	46
setup.exe の実行	46
サイレントインストールの使用	52
Sun ONE Web Server のデフォルトのディレクトリ	54
Windows でのアンインストールの実行	55
<b>第 5 章 バージョン 6.0 から 6.1 への移行</b>	<b>57</b>
移行の概要	57
設定値およびデータの移行	58
移行されない情報	62
Sun ONE Web Server 6.1 の変更点の概要	63
CGIstub ディレクトリ	63
コマンド行スクリプト	64
設定ファイル	64
Sun ONE Web Server 6.1 で削除される設定ファイル	68
接続グループの設定	68
cron 制御	69
Java の移行	69
JSP (Java Server Pages)	70
古いバージョンのサーブレット	70
検索の移行	71
セキュリティ	71
セッションマネージャ	71
設定ファイル内のシンボリックリンク (UNIX および Linux)	72
Web アプリケーション	73
WebDAV を使用した Web パブリッシング	74

<b>第 6 章 バージョン 4.1 から 6.1 への移行</b> .....	<b>75</b>
移行の概要 .....	75
設定値およびデータの移行 .....	76
「Migrate server-name」 ページ .....	82
管理サーバーの移行 .....	82
ユーザーおよびグループ情報の移行 .....	82
仮想サーバーの移行 .....	82
ACL の移行 .....	83
証明書の移行 .....	83
アプリケーションの移行 .....	83
NSAPI アプリケーションの移行 .....	83
サーバーサイド Java アプレット (HttpApplet) .....	83
移行されない情報 .....	84
移行に関する変更点の要約 .....	85
アクセスログとエラーログ .....	85
設定ファイル .....	85
JSP (Java Server Pages) .....	86
Java サブレット .....	86
cron 制御 .....	87
certmap.conf ファイル .....	87
シンプルセッションマネージャ .....	87
仮想サーバー .....	88
Web パブリッシング .....	88
検索 .....	88
起動スクリプトおよび停止スクリプト .....	88
設定ファイル中のシンボリックリンク (UNIX および Linux) .....	88
サーバーサイド JavaScript (SSJS)/LiveWire .....	88
<b>索引</b> .....	<b>91</b>



# このマニュアルについて

このマニュアルでは、Sun™ Open Net Environment (Sun ONE) Web Server 6.1 のインストール方法および以前のバージョンの Sun ONE Web Server からこのバージョンへの移行方法について説明します。

この章は、次の節から構成されています。

- [このマニュアルの使用方法](#)
- [表記上の規則](#)
- [ほかのマニュアルの使用方法](#)
- [製品サポート](#)

このマニュアルは、Sun ONE Web Server 6.1 のインストールまたは以前のバージョンからの移行作業に携わるシステム管理者、ネットワーク管理者、Web サーバー管理者、Web 開発者、およびソフトウェア開発者を対象としています。

## このマニュアルの使用方法

このマニュアルでは、Sun ONE Web Server をシステムにインストールするために必要な情報について説明します。このマニュアルでは、以前のバージョンの Sun ONE Web Server がインストール済みの場合のデータの移行方法についても説明します。

次の表に、Sun ONE Web Server 6.1 のインストールまたは Sun ONE Web Server 6.1 への移行を行う際のこのマニュアルの使用方法を示します。

表 1 このマニュアルの使用方法

操作内容	参照先
Sun ONE Web Server 6.1 の新機能について理解する	<a href="#">第 1 章「Sun ONE Web Server 6.1 の新機能」</a>

表 1 このマニュアルの使用方法 ( 続き )

操作内容	参照先
サーバーのインストール前に実行すべき操作 ( サーバーの動作に必要なほかの製品のインストールなどを含む ) について理解する	第 2 章 「Sun ONE Web Server インストールの前に」
UNIX 上にサーバーをインストールおよびアンインストールする具体的な手順を理解する	第 3 章 「UNIX への Web Server のインストール」
Windows 上にサーバーをインストールおよびアンインストールする具体的な手順を理解する	第 4 章 「Windows への Sun ONE Directory Server のインストール」
iPlanet Web Server 6.0 からデータおよびアプリケーションを移行する	第 5 章 「バージョン 6.0 から 6.1 への移行」
iPlanet Web Server 4.1 からデータおよびアプリケーションを移行する	第 6 章 「バージョン 4.1 から 6.1 への移行」
このマニュアルに含まれる情報を検索する	索引

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次の規則に従って表記されています。

- このマニュアルの中で **Sun ONE Web** サーバーについて説明している場合、**Enterprise Edition** を指します。
- モノスペースフォントは、サンプルコードおよびコード一覧、API および言語要素 ( メソッド名やプロパティ名など )、ファイル名、パス名、ディレクトリ名、HTML タグ、および画面に入力するすべてのテキストを示す場合に使用されます。
- 斜体 (*Italic*) フォントは、コード内では、実際の値に置き換えられる可変パラメータを表します。斜体フォントは、マニュアル名、強調、特定の文字 ( 例 : 「*T* で始まる名前を入力します。」 ) や単語 ( 例 : 「すべての製品名に *server* という単語が含まれます。」 ) を強調する場合にも使用されます。
- スラッシュ (*/*) は、パスのディレクトリの区切りとして使用されます。(Windows では、スラッシュとバックスラッシュの両方が使用されています。)



## ほかのマニュアルの使用方法

Sun ONE Web server のマニュアルは、次のサイトから PDF 形式および HTML 形式のオンラインファイルとして入手できます。

[http://docs.sun.com/db/coll/S1\\_websrv61\\_ja](http://docs.sun.com/db/coll/S1_websrv61_ja)

次の表に、Sun ONE Web server のマニュアルで説明されているタスクと概念を示します。

表 2 Sun ONE Web server のマニュアルの概要

参照する情報	参照先
ソフトウェアとマニュアルの最新情報	『リリースノート』
Sun ONE Web サーバーの概要とサーバーの基本情報 および機能を説明するための実習 (はじめて使用する ユーザー向け)	『Getting Started Guide』
次のインストールと移行の実行	『インストールおよび移行ガイド』
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Sun ONE Web server とその各種コンポーネント、サポートされているプラットフォーム、および環境をインストールする</li> <li>• Sun ONE Web Server 4.1 または 6.0 から Sun ONE Web Server 6.1 に移行する</li> </ul>	

表 2 Sun ONE Web server のマニュアルの概要 ( 続き )

参照する情報	参照先
次の管理者レベルのタスクの実行	『管理者ガイド』
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理インタフェースとコマンド行インタフェースを使用する</li> <li>• サーバーの設定を行う</li> <li>• サーバーインスタンスを使用する</li> <li>• サーバーの稼動状況を監視および記録する</li> <li>• サーバーをセキュリティ保護するために、証明書と公開鍵の暗号法を使用する</li> <li>• サーバーをセキュリティ保護するために、アクセス制御を設定する</li> <li>• Java™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™ プラットフォーム) のセキュリティ機能を使用する</li> <li>• アプリケーションを配備する</li> <li>• 仮想サーバーを管理する</li> <li>• パフォーマンスのニーズに合わせて、サーバーの作業負荷を定義し、システムサイズを指定する</li> <li>• Java™ アプレット、CGI プログラム、JavaScript アプリケーション、およびその他のプラグインをインストールする</li> <li>• コンテンツやサーバーのドキュメントの属性を検索し、テキスト検索インタフェースを生成する</li> <li>• コンテンツの圧縮を行えるようにサーバーを設定する</li> <li>• WebDAV を使用して Web パブリッシングやコンテンツのオーサリングを行えるようにサーバーを設定する</li> </ul>	
プログラミング技術や API を使用した次のタスクの実行	『Programmer's Guide』
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Sun ONE Web Server を拡張および変更する</li> <li>• クライアントの要求に応じてダイナミックにコンテンツを生成する</li> <li>• サーバーのコンテンツを変更する</li> </ul>	
カスタム NSAPI (Netscape Server Application Programming Interface) プラグインの作成	『NSAPI Programmer's Guide』

表 2 Sun ONE Web server のマニュアルの概要 ( 続き )

参照する情報	参照先
Sun ONE Web Server でのサーブレットおよび JSP™ (JavaServer Pages™) テクノロジーの実装	『Programmer's Guide to Web Applications』
設定ファイルの編集	『Administrator's Configuration File Reference Guide』
パフォーマンスを最適化するための Sun ONE Web Server の調整	『Performance Tuning, Sizing, and Scaling Guide』

## 製品サポート

システムの使用にあたって問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマサポートにお問い合わせください。

- オンラインサポートの Web サイト  
<http://jp.sun.com/supporttraining/>
- メンテナンス契約で特別に指定された電話番号

お問い合わせの際には、迅速で適切な問題解決のため次の情報をご用意ください。

- 問題の詳細な内容 ( 発生状況や業務への影響など )
- マシンのタイプ、OS のバージョン、および製品のバージョン ( 問題に関連している可能性のあるパッチやその他のソフトウェアを含む )
- 問題を再現するための詳細な手順
- エラーログおよびコアダンプ時のコア (core) ファイル



# Sun ONE Web Server 6.1 の新機能

Sun ONE Web Server は、マルチプロセス、マルチスレッドのセキュリティ保護された Web サーバーであり、オープン規格に基づいて構築されています。この製品は、どのような規模の企業にも、高い性能、信頼性、スケーラビリティ、管理性を提供します。

Sun ONE Web Server 6.1 リリースでは、次の新機能が提供されています。

- **セキュリティの強化** : Sun ONE Web Server 6.1 の新機能により、フラットファイル認証を使用してアクセスを制限できます。以前のバージョンの Web サーバーとは異なり、Sun ONE Web Server 6.1 では、Java セキュリティマネージャもサポートされるようになりました。Java セキュリティマネージャは、製品のインストール時にはデフォルトで無効になっています。
- **Servlet 2.3 のサポート** : Java™ Servlet 2.3 仕様のサポート。詳細は、以下を参照してください。

Java サブレット

<http://java.sun.com/products/servlet/index.html>

Java Servlet 2.3 仕様

<http://java.sun.com/products/servlet/download.html>

Sun ONE Web Server でのサブレットと JSP の開発については、Sun ONE Web Server 6.1 の『Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

- **JSP 1.2 のサポート** : JSP™ (JavaServer Pages™) 1.2 のサポート。この仕様の詳細は、以下を参照してください。

<http://java.sun.com/products/jsp/index.html>

- **JDK 1.4.1\_03 のサポート** : Sun ONE Web Server 6.1 は、JDK™ (Java Development Kit) 1.4.1\_03 をサポートしています。この JDK は、Web サーバーにバンドルされているため Web サーバーのインストール時にインストールされます (JDK のインストールを選択した場合)。Web サーバーをインストールしたあとで独自の JDK をインストールすることもできます。

- **簡単な移行** : Sun ONE Web Server 6.1 は、iPlanet Web Server 4.1 および 6.0 から簡単に移行できます。
- **WebDAV のサポート** : Sun ONE Web Server は、WebDAV (Web Distributed Authoring and Versioning) プロトコルをサポートしています。WebDAV を使用すると、次の機能によって適切に多くの人が共通に Web パブリッシングを行うことができます。
  - RFC 2518 準拠および RFC 2518 クライアントとの相互運用性
  - Web パブリッシングのセキュリティとアクセス制御
  - ファイルシステムベースの WebDAV のコレクションおよびリソースに対する基本的なパブリッシング操作

詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

- **NSAPI フィルタのサポート** : Sun ONE Web Server 6.1 では、NSAPI フィルタをサポートするために NSAPI (Netscape Server Application Programmer's Interface) が拡張されています。フィルタを使用すると、HTTP 要求 / 応答ストリームのカスタム処理が可能になり、関数が、別の関数に提供されるコンテンツや別の関数によって作成されたコンテンツを途中で受け取って変更できるようになります。たとえば、プラグインに NSAPI フィルタをインストールして、別のプラグインのサーバーアプリケーション関数 (SAF) によって生成された XML ページを途中で受け取り、その XML ページをクライアントに適した HTML、XHTML、または WAP ページに変換することができます。また、NSAPI フィルタを使用して、クライアントから受け取ったデータを解凍してから別のプラグインに提供することもできます。

詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『NSAPI Programmer's Guide』を参照してください。

**圧縮のサポート** : Sun ONE Web Server 6.1 ではコンテンツの圧縮を行うことができます。そのため、ハードウェアの出費を増やすことなく、クライアントへの配信速度を向上させ、より多くのコンテンツを提供できます。コンテンツの圧縮により、コンテンツのダウンロード時間が短くなるため、特にダイヤルアップ接続や高トラフィック接続を行うユーザーにとって大きな利点となります。

詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

- **JNDI のサポート** : Sun ONE Web Server は、JNDI (Java Naming and Directory Interface™) API をサポートしています。JNDI を使用すると、企業の異種のネーミングサービスやディレクトリサービスにスムーズに接続できます。
- **JDBC のサポート** : Sun ONE Web Server は、直ちにシームレスな JDBC™ (Java™ Database Connectivity) を提供し、さまざまな業界標準の、またはカスタマイズされた JDBC ドライバをサポートします。

詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

- **NSS 3.3.5 と NSPR 4.1.5 のサポート** : Sun ONE Web Server 6.1 は、NSS (Network Security Services) 3.3.5 と NSPR (Netscape Portable Runtime) 4.1.5 をサポートします。
- **新しい検索エンジンのサポート** : Sun ONE Web Server 6.1 は、全文検索のインデックス作成および検索結果の取得機能を提供する新しい Java ベースの検索エンジンをサポートします。この検索機能を使用すると、ユーザーはサーバー上のドキュメントを検索して、結果を Web ページに表示できます。サーバー管理者は、ユーザーが検索するドキュメントのインデックスを作成したり、特定のニーズに合わせて検索インタフェースをカスタマイズしたりできます。

詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

- **Sun ONE Studio 5 のサポート** : Sun ONE Web Server 6.1 は、Sun™ ONE Studio 5.0 をサポートします。Sun ONE Studio テクノロジは、Sun が Java テクノロジの開発者用に提供する拡張可能で強力な統合開発環境 (IDE) です。Sun ONE Studio は、NetBeans™ ソフトウェアに基づいて、Sun ONE プラットフォームと統合されています。

Sun ONE Studio は、Sun ONE Web Server 6.1 でサポートされているすべてのプラットフォーム上で利用できます。Web サーバー用のプラグインは、次の方法で入手できます。

- Sun ONE Web Server 6.1 メディアキットの付属 CD から
- Sun ONE Studio の AutoUpdate 機能を使用して
- 以下の Sun ONE Web Server 6.1 のダウンロードセンターから

[http://www.sun.com/software/download/inter\\_ecom.html](http://www.sun.com/software/download/inter_ecom.html)

Sun ONE Web Server 6.1 用の Sun ONE Studio 5 プラグインは、ローカル Web サーバーでのみ (つまり、IDE と Web サーバーが同じマシン上にある場合にのみ) 機能することに注意してください。

Sun ONE Web Server 6.1 の Sun ONE Studio 5 プラグインの動作は、Sun™ ONE Application Server 7 の場合と同じです。Sun ONE Studio 5 の Web アプリケーション機能の使用については、次の場所にあるチュートリアルを参照してください。

[http://developers.sun.com/tools/javatools/documentation/s1s5/cds\\_hop.pdf](http://developers.sun.com/tools/javatools/documentation/s1s5/cds_hop.pdf)

Sun ONE Studio 5 の詳細は、以下を参照してください。

<http://www.sun.com/software/sundev/jde/>

(日本語版 : <http://jp.sun.com/software/sundev/jde/>)

- **Sun ONE ASP のサポート** : Sun ONE Web Server は、Windows、AIX、および HP-UX プラットフォーム上の Sun™ ONE Active Server Pages 4.0.1 をサポートしています。Sun ONE Active Server Pages ソフトウェアは、Active Server Pages (ASP、.asp) Web サイトおよび Web アプリケーションを異なるプラットフォーム間に配備するためのサーバーサイドのスクリプトおよび実行環境です。
- **PHP との互換性** : Sun ONE Web Server 6.1 は PHP と互換性があります。PHP は、広く使用されている多目的なオープンソースの Web スクリプト言語です。PHP (Hypertext Preprocessor) は、すべての主要なオペレーティングシステム上で実行できます。

Sun ONE Web Server 6.1 では PHP バージョン 4.3.2 を使用することをお勧めします。Sun ONE Web Server に固有の PHP 関連のインストールおよび設定の詳細については、以下を参照してください。

<http://www.php.net/manual/en/install.netscape-enterprise.php>

- **拡張されたハードウェアアクセラレータによる暗号化のサポート** : Sun ONE Web Server 6.1 は、Sun™ Crypto Accelerator 1000 用のハードウェアアクセラレータをサポートしています。これは、Web サーバー上の SSL のパフォーマンスを向上させる暗号化アクセラレータボードです。
- **「Start on Boot」オプション** : UNIX プラットフォーム上で Sun ONE Web Server 6.1 で「Start on Boot」オプションが使用できるようになりました。このオプションを使用すると、システム起動時に Web Server が自動的に起動されるように設定できます。この機能を使用するには、root (スーパーユーザー) で Web サーバーをインストールし、インストール中に「Start on Boot」を選択する必要があります。詳細は、第 3 章「UNIX への Web Server のインストール」を参照してください。



# Sun ONE Web Server インストールの前に

以下の節では、Sun ONE Web Server をインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

この章は、次の節から構成されています。

- サポートされているプラットフォーム
- 必要なパッチ
- サポートされているブラウザ
- ハードウェアおよびソフトウェア要件
- その他の技術的要件
- インストールの概要

## サポートされているプラットフォーム

次の表に、Sun ONE Web Server でサポートされているプラットフォームを示します。

表 2-1 Sun ONE Web Server 6.1 でサポートされているプラットフォーム

ベンダー	アーキテクチャ	オペレーティングシステム	最小必須メモリー	推奨メモリー	推奨ディスク容量
IBM	PowerPC	IBM AIX 5.1*、5.2	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Hewlett-Packard	PA-RISC 2.0	HP-UX 11i*	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Microsoft	Intel x86	Windows 2000 Server および XP	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	UltraSPARC**	Solaris 8、9	64M バイト	192M バイト	256M バイト
Sun	x86	Solaris 9	64M バイト	192M バイト	256M バイト

表 2-1 Sun ONE Web Server 6.1 でサポートされているプラットフォーム (続き)

ベンダー	アーキテクチャ	オペレーティングシステム	最小必須メモリー	推奨メモリー	推奨ディスク容量
Linux	Intel x86	Red Hat Linux Advanced Server 2.1  カーネルバージョン :2.4.7-10smp  glibc - 2.2.4-13  ncurses - 4-5.0-5.i386.rpm  libncurses5.so から libncurses4.so にシ ンボリックリンクを作 成することもできます が、 ncurses4-5.0-5.i3 86.rpm をインストー ルすることをお勧めし ます。	64M バイト	192M バイト	256M バイト

\* バイナリ互換の機能によりサポートされています。

\*\*iPlanet Web Server 6.0 から、古い SPARC CPU はサポートされていません。Sun ONE Web Server 6.1 では、UltraSPARC アーキテクチャが引き続きサポートされています。

## 必要なパッチ

適用可能な最新のパッチを使用してオペレーティングシステムを更新することをお勧めします。

Solaris OE プラットフォームの場合は、次の場所で Sun の推奨するパッチリストを参照できます。

<http://sunsolve.sun.com/pubpatch>

---

**警告** 認証用の LDAP を使用するように Solaris を設定する場合は、Solaris 8 にパッチ 108993-22 (SPARC) または 108994-22 (x86) を適用する必要があります。

---

## サポートされているブラウザ

Sun ONE Web Server は、次のブラウザで実行できます。

- Netscape™ 7.0
- Netscape™ 6.2.1
- Netscape™ 4.79
- Microsoft Internet Explorer 6.0
- Microsoft Internet Explorer 5.5

# ハードウェアおよびソフトウェア要件

使用するコンピュータには、前述の UNIX、Linux、または Windows オペレーティングシステムの各メモリーおよびディスク容量要件に加え、次のハードウェアおよびソフトウェアも必要です。

## すべてのプラットフォーム

- ブラウザで、Java および cookie を有効にする必要があります。
- Internet Explorer を使用している場合は、アクセスするたびにページの新規バージョンを確認するように設定してください。設定するには、まず「ツール」メニューの「インターネットオプション」を選択します。「全般」タブの「インターネット一時ファイル」セクション内の「設定」をクリックします。「保存しているページの新しいバージョンの確認」ラベルの下の、「ページを表示するごとに確認する」ラジオボタンをクリックします。

## UNIX/Linux

- システムに搭載した RAM と同容量以上のスワップ領域 (RAM の 2 倍を推奨)。Linux の場合、256M バイトのスワップ領域が必要です。

## Windows

- システム上で Sun ONE Web Server のインスタンスを複数実行する場合、サーバーインスタンスごとにさらに 16M バイトの RAM が必要になります。
- システムに搭載した RAM と同容量以上のページング領域 (RAM の 2 倍を推奨)。
- Sun ONE Web Server のインストール時にホスト名を使用する場合、DNS サーバー内で、使用するサーバーのエントリに対応する DNS を正しく設定する必要があります。
- マシンのスタティック IP アドレス。

## その他の技術的要件

Sun ONE Web Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの準備ができれば、次の要件を満たしていることを確認してください。

- 使用するサーバーコンピュータのホスト名および IP アドレスを知っていること。
- サーバーが DNS エイリアスを保持すること。サーバー用の DNS エイリアスを作成する方法については、[21 ページの「サーバー用 DNS エイリアスの作成」](#)を参照してください。
- サーバーが UNIX、Linux、または Windows のユーザーアカウントを保持すること。詳細は、[22 ページの「サーバーの UNIX および Linux ユーザーアカウント」](#)または [23 ページの「サーバーの Windows ユーザーアカウント」](#)を参照してください。
- 2つのポート番号 (管理サーバー用に1つ、Sun ONE Web Server の最初のサーバーインスタンス用に1つ) を保持すること。サーバー用のポート番号を選択する方法については、[23 ページの「一意のポート番号の選択」](#)を参照してください。

## サーバー用 DNS エイリアスの作成

サーバーがネットワーク内の特定のマシンで稼動する場合、ユーザーまたはシステム管理者は、実際のサーバーマシンを指し示す DNS CNAME レコードまたはエイリアスを設定する必要があります。サーバーマシンの実ホスト名または IP アドレスは、あとで変更できます。その際、サーバーマシンを示す URL を変更する必要はありません。

たとえば、サーバー名を `my_server.my_company.com` とした場合、`www.my_company.com` というエイリアスを使用できます。この場合、サーバー上のドキュメントを指す URL には、`my_server` の代わりに常に `www` エイリアスが使用されます。

## サーバーの UNIX および Linux ユーザーアカウント

Sun ONE Web Server は、インストール時に指定した UNIX または Linux ユーザーアカウントを使用して起動します。サーバーの子プロセスはすべて、このアカウントを所有者として作成されます。サーバーの UNIX または Linux ユーザーアカウントには、システムリソースへのアクセスを制限するのが最善です。このアカウントは、設定ファイルの読み取り権限および logs ディレクトリへの書き込み権限を必要とします。

Solaris OE では、`webservd` というユーザーおよびグループアカウントが存在していない場合、デフォルトでこのアカウントが Sun ONE Web Server 用に作成されます。

Solaris UNIX 以外のプラットフォーム (`webservd` ユーザー / グループを予約できないプラットフォーム) では、Sun ONE Web Server 専用のユーザーアカウントを作成しない場合、`nobody` という名前のアカウントを使用できます。ただし、ユーザー `nobody` に Sun ONE Web Server の実行権限を付与することが望ましくない場合もあります。さらに、インストール中に負の `uid/gid` が割り当てられると、ユーザー `nobody` が使用できないシステムもあります。`nobody` の `uid` が存在する場合、`/etc/passwd` ファイルを調べて、値が 0 より大きいことを確認してください。

---

**注**                   サーバー専用のアカウントを使用することを、強くお勧めします。

---

管理サーバーは、インストールされたすべてのサーバーの設定ファイルへの書き込み権限を持つユーザーアカウントでも実行可能です。ただし、管理サーバーのユーザーは 1024 より小さいポート番号のサーバーを起動および停止できるため、管理サーバーを `root` で実行する方が簡単です (1024 より大きいポート番号は、どのユーザーも起動できます)。

Sun ONE Web Server の実行に使用するユーザー (`nobody` であることが多い) を、管理サーバーの実行に使用するユーザー (`root` であることが多い) と同じグループにする必要があります。

---

**注**                   サーバーユーザーを変更する場合、`/tmp` ディレクトリ内に作成された `/tmp/lock.*` ファイルをすべて削除してください。

---

## サーバーの Windows ユーザーアカウント

Sun ONE Web Server 用の Windows ユーザーアカウントを作成する必要があります。このユーザーアカウントは、システムリソースへのアクセスが制限されており、権限の与えられていないシステムユーザーアカウント (システムへのアクセスが限定されたアクセス権限を持つユーザー) で実行されます。サーバーの起動は、このユーザーアカウントで実行されます。サーバーが使用するサーバー拡張モジュールはすべて、このユーザーアカウントを所有者として作成されます。

インストール時には、作成したユーザーアカウントではなく、LocalSystem アカウントがサーバーにより使用されます。サーバーの起動および実行後は、作成したユーザーアカウントを使用する必要があります。インストール処理後に、サーバーのユーザーアカウントを変更できます。別のコンピュータ上のファイルにアクセスする権限を持つように、ユーザーアカウントを設定できます。これにより、サーバーは、別のコンピュータからマウントしたファイルを提供できるようになります。

さらに、作成するサーバー用ユーザーアカウントを、すべての Sun ONE サーバーのユーザーを含むグループに所属させる必要があります。こうすることにより、複数のサーバーで共有ファイルへのアクセスが可能になります。

---

**注**                      サーバー専用のアカウントを使用することを、お勧めします。

---

## 一意のポート番号の選択

複数のポート番号 (管理サーバー用に 1 つ、Sun ONE Web Server の各インスタンス用に 1 つ) が必要です。管理サーバーは Sun ONE Web Server の特別なインスタンスで、Sun ONE Web Server の管理に使用されます。

標準的な Web サーバーのポート番号は 80、標準的な SSL 対応の Web サーバーのポート番号は 443 ですが、Sun ONE Web Server にはインストール時に任意のポートを設定できます。デフォルトポート (ポート 80) 以外のポートを使用する場合、ホームページへのアクセスに使用される URL が変更されます。たとえば、使用するコンピュータが [www.siroe.com](http://www.siroe.com) で、ポート 9753 を選択した場合、サーバーの URL は、<http://www.siroe.com:9753/> になります。

管理サーバーのポート番号を無作為に設定することにより、第三者のサーバーへの侵入を防ぐことができます。サーバーの構成時に、管理サーバーのポート番号を使用します。たとえば、サーバーが [mozilla.com](http://www.mozilla.com) の場合、サーバーの URL は <http://www.mozilla.com:2634/> のようになります。

選択するポートが使用中でないことを確認してください。UNIX および Linux システムでは、サーバーマシンの `/etc/services` ファイルを調べれば、割り当てようとしているポート番号が、別のサービス用に予約されているかどうかを確認できます。別のサービスが使用中のポートを選択すると、別のポートを選択するよう促すメッセージが、インストールプログラムにより表示されます。

---

**注** UNIX または Linux を使用していて、1024 より小さいサーバーポート番号を選択した場合は、`root` でログインしてサーバーを起動する必要があります。サーバーをポートにバインドしたあとで、`root` ユーザーアカウントから、指定したユーザーアカウントへ変更されます。1024 より大きいポート番号を選択した場合は、`root` ユーザーでなくてもサーバーを起動できます。

---

## インストールの概要

Sun ONE Web Server は、次の Sun 製品のダウンロード用 Web サイトからダウンロードしてインストールできます。

<http://www.sun.com/software>

Sun ONE Web Server CD からインストールすることもできます。さらに、Sun ONE Web Server ソフトウェアには、Sun ONE Directory Server 5.2 が付属 CD として同梱されています。

Sun ONE Web Server をインストールする際、次の基本手順に従ってください。

1. iPlanet Web Server 4.1 がインストール済みで、Sun ONE Web Server 6.1 への移行を計画している場合、iPlanet Web Server 4.1 を停止し、すべてのファイルをサーバールートにバックアップします。



---

**注**                   バージョン 4.1 よりも前の iPlanet Web Server から Sun ONE Web Server 6.1 に直接移行することはできません。その場合は、まず古いバージョンのサーバーを iPlanet Web Server 4.1 に移行してから、Sun ONE Web Server 6.1 に移行する必要があります。

---

Sun ONE Web Server 6.1 は、別のディレクトリにインストールする必要があります。たとえば、以前のバージョンの Web サーバーが C:\netscape\server4 にインストールされている場合は、Sun ONE Web Server 6.1 を C:\Sun\WebServer6.1 にインストールします。

Windows では、サーバーのインストール時に Winnt/System32 に追加されたファイルおよびレジストリのコピーを保存しておくことが望ましい場合があります。レジストリの保存方法の詳細は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

2. ブラウザがインストールされていない場合は、インストールします。サポートされているブラウザのリストについては、「[サポートされているブラウザ](#)」を参照してください。
3. アクセス制御用のユーザーおよびグループを使用する予定で、かつ Sun ONE Directory Server がインストールされていない場合は、Sun ONE Web Server ソフトウェアの付属 CD からインストールします。
4. Sun ONE Web Server をインストールおよび構成します。



# UNIX への Web Server のインストール

この章では、UNIX システムに Sun ONE Web Server をインストールする方法を説明します。この章は、次の節から構成されています。

- [UNIX プラットフォームへのインストール](#)
- [複数のマシンへのインストール](#)
- [Sun ONE Web Server のデフォルトのディレクトリ](#)
- [UNIX でのアンインストールの実行](#)

## UNIX プラットフォームへのインストール

ここでは、Sun ONE Web Server を UNIX プラットフォームにインストールする方法について説明します。

---

<b>警告</b>	Sun ONE Web Server 6.1 は、以前のバージョンの Web サーバーがあるサーバールートディレクトリとは異なるサーバールートディレクトリにインストールする必要があります。
-----------	--

---

## 適正なユーザーでのログイン

次の条件を満たしていない場合は、Sun ONE Web Server をインストールする前に root でログインする必要があります。

- Sun ONE Web Server を 1024 より大きいポートにインストールする
- サーバーのインストール場所 (サーバーのルートディレクトリ) が、root 以外でログインした場合でも書き込み可能である
- 高速インストール (Express Installation) を使用しない

これらの条件を満たしている場合、root でログインする必要はなく、管理サーバーが使用するユーザーアカウントでログインできます。上記の条件を満たしている場合でも、root でログインできます。

## ファイルの展開

Sun ONE Web Server のファイルを取得して展開するには、次の手順を実行します。

### Web Server CD からのインストール

1. Web Server CD をドライブに挿入します。
2. CD-ROM のディレクトリに移動します。  

```
cd /cdrom
```
3. CD 上で、使用する UNIX オペレーティングシステム名のディレクトリに移動します。  

```
cd Solaris_Sparc
```
4. インストールディレクトリに移動します。  

```
cd SUNWwbsvr
```
5. tar ファイル sunw-webserver-6.1.<platform-name>.tar を、CD からホームディレクトリまたは一時ディレクトリにコピーします。  

```
cp sun-webserver-6.1.sol.tar /tmp/SUNWwbininstall
```

---

**注**            ファイルを展開すると、展開先のディレクトリのアクセス権が変更されて、アプリケーションからの書き込みができなくなります。この問題を避けるには、アクセス権を変更可能なディレクトリでファイルを展開してください。たとえば、/tmp の代わりに、/tmp のサブディレクトリ (/tmp/SUNWwbininstall など) を使用します。

---

ファイルのコピーには、時間が少しかかる場合があります。

6. ファイルをコピーした UNIX マシンのディレクトリに移動します。  

```
cd /tmp/SUNWwbininstall
```
7. tar -xvf filename と入力して、ファイルを展開します。  

```
tar -xvf sun-webserver-6.1.sol.tar
```

このコマンドにより、サーバーファイルが展開され、一時ディレクトリ構造が現在のディレクトリに作成されます。ファイルの展開には、時間が少しかかる場合があります。ファイルの展開により、/WebServer ディレクトリ、/lib ディレクトリ、および次のファイルが作成されます。

- README.txt
- 3RD-PARTY-LICENSE.txt
- LICENSE.txt
- setup
- installWrapper
- setup.inf
- template.inf

## ダウンロードしたサーバーのインストール

1. <http://www.sun.com/software/download/> からファイルをダウンロードし、一時ディレクトリに保存します。
2. ファイルをコピーした UNIX マシンのディレクトリに移動します。

```
cd /tmp/SUNWwbininstall
```

3. `gunzip filename` と入力して、.gz ファイルを展開します。ファイル名は、次の形式になります。

```
sun-webserver-6.1.<platform-name>.tar.gz
```

その例を次に示します。

```
gunzip sunw-webserver-6.1.sol.tar.gz
```

4. `tar -xvf filename` と入力して、ファイルを展開します。その例を次に示します。

```
tar -xvf sun-webserver-6.1.sol.tar
```

このコマンドにより、サーバーファイルが展開され、一時ディレクトリ構造が現在のディレクトリに作成されます。ファイルの展開には、時間が少しかかる場合があります。ファイルの展開により、/WebServer ディレクトリ、/lib ディレクトリ、および次のファイルが作成されます。

- README.txt
- 3RD-PARTY-LICENSE.txt
- LICENSE.txt
- setup
- installWrapper
- setup.inf

- `template.inf`

---

**注** ファイルを展開すると、展開先のディレクトリのアクセス権が変更されて、アプリケーションからの書き込みができなくなります。この問題を避けるには、アクセス権を変更可能なディレクトリでファイルを展開してください。たとえば、`/tmp` の代わりに、`/tmp` のサブディレクトリ (`/tmp/SUNWwbininstall` など) を使用します。

---

## setup の実行

セットアッププログラムを実行して、Sun ONE Web Server をインストールします。

インストール処理では、高速インストール (Express Installation)、標準インストール (Typical Installation)、カスタムインストール (Custom Installation) のいずれかを選択できます。通常は、標準インストールまたはカスタムインストールを選択してください (この2つは同等です)。標準インストールまたはカスタムインストールを選択すると、コンポーネントのインストールおよび設定をより柔軟に行えます。

ユーザーが初心者であるか、製品の評価目的で使用する場合には、高速インストールを選択してください。高速インストールでは、ポート番号やインストールするコンポーネントがあらかじめ設定されています。詳細は、「[高速インストール](#)」を参照してください。

インストーラを実行する際、次のコマンドを使用できます。

- 括弧で指定されたデフォルト設定 (「All」など) を受け入れる場合、Enter キーを押します。
- 前の画面に戻るには、CTRL+B キーを押します (すべての画面でこのキーシーケンスが有効なわけではありません)。
- インストールプログラムを中止するには、CTRL+C キーを押します。
- 複数の項目を選択する場合、数字をコンマで区切って入力します (例、1,2,3)。

---

**注** 高速インストールの場合、root でログインしてセットアッププログラムを起動する必要があります。

---

## 標準またはカスタムインストール

通常は、標準またはカスタムインストールを選択してください。

セットアッププログラムを実行するには、次の手順に従います。

1. ファイルを展開したディレクトリに移動します (ファイルを展開したディレクトリにまだ移動していない場合)。

2. `./setup` と入力して、サーバーのインストールを開始します。  
root ユーザー (スーパーユーザー) でログインしていない場合、または十分な書き込み権限を持っていない場合は、エラーメッセージが表示されます。  
開始画面が表示されます。Enter キーを押して、インストールを続行します。
3. ソフトウェア使用許諾契約を受け入れる場合は「Yes」を、受け入れない場合は「No」を入力します。ライセンス条項を確認していない場合は、インストールを中止して、`setup` プログラムと同じディレクトリにある `LICENSE.txt` ファイルをお読みください。「Yes」または「y」と入力して、ライセンス条項に同意します。
4. サーバーファイルとディレクトリ構造をインストールするサーバールートディレクトリを指定するか、デフォルト (`/opt/SUNWwbsvr/`) を受け入れて、Enter キーを押します。

---

**注** このディレクトリへの書き込み権限を持つユーザー (ディレクトリ所有者など) でサーバーを実行する必要があります。

---

5. すべてのコンポーネントを選択して、Enter キーを押します。
6. 次のサブコンポーネントをインストールします。
  - **Server Core:** 管理サーバーおよび Sun ONE Web Server の最初のインスタンスをインストールします。
  - **JDK (Java Development Kit):** Sun ONE Web Server 6.1 では、JDK (Java Development Kit) のバージョン 1.4.1\_03 がバンドル製品として提供されています。提供された JDK をインストールすることも、独自の JDK を使用することもできます。

---

**注** 付属の JDK をインストールしない場合は、「1」と入力し、Enter キーを押します。この場合、追加のインストール手順として [手順 15](#) を実行し、JDK へのパスを指定する必要があります。

---

7. サーバーをインストールするコンピュータの完全修飾ドメイン名を指定し、Enter キーを押します。その例を次に示します。  
`plaza.sun.com`
8. Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスの実行時に使用する UNIX ユーザーおよびグループ名を入力し、Enter キーを押します。

root でインストールしている場合は、Solaris OE を除くすべての UNIX システム上のデフォルトのユーザーおよびグループは nobody になります。Solaris OE では、root でインストールしている場合、デフォルトのユーザーおよびグループは webserverd になります。このユーザーまたはグループが存在しない場合は、インストール中に自動的に作成されます。

---

**注** HP-UX では、nobody の UID は -2 になります。このプラットフォームでサーバーを nobody で実行する必要がある場合、nobody の UID を、UID の最大値より小さい、一意の正の値に変更してください。

---

9. 管理サーバーの実行時に使用する UNIX ユーザー名を入力し、Enter キーを押します。

たいていの場合、このユーザーは root です。

10. 認証に使用する管理サーバーのユーザー名およびパスワードを入力します。パスワードを 2 度入力するよう求められます。Enter キーを押します。
11. 管理サーバーのポート番号を入力するか、デフォルトポート (8888) を受け入れます。

使用が制限されないように、1024 より大きいポート番号を選択してください。管理サーバーに 1024 より小さいポート番号を使用すると、root でログインしないかぎり、サーバーを起動できなくなります。すでに使用中のポートは、選択しないでください。

Sun ONE Web Server の管理サーバーは、ほかの Sun ONE サーバーに付属の管理サーバーとは異なります。

ポートの詳細は、[23 ページの「一意のポート番号の選択」](#)を参照してください。

12. Sun ONE Web Server のポート番号を入力します。

デフォルトは 80 です。このポートには、管理サーバーのポートとは異なるポート番号を指定してください。root でインストールしていない場合には、ポートを規定の範囲 (1024 ~ 65535) にする必要があります。root でインストールしている場合は、1024 より小さいポート番号を使用できます。

デフォルトポート (ポート 80) 以外のポートを使用する場合、ホームページへのアクセスに使用する URL が変更されます。たとえば、使用するコンピュータが www.sun.com で、ポート 9753 を選択した場合、サーバーの URL は、http://www.sun.com:9753/ になります。

ポートの詳細は、[23 ページの「一意のポート番号の選択」](#)を参照してください。

13. サーバーのコンテンツファイル (サーバーにアクセスするユーザーに提供するイメージ、HTML ドキュメントおよびデータ) を格納するルートディレクトリを入力し、Enter キーを押します。デフォルトは、`server_root/docs` です。



14. Sun ONE Web Server を root (スーパーユーザー) でインストールしている場合は、システム起動時に自動的に Web サーバーを起動するオプション (「Start on Boot」) が次に表示されます。起動時に起動するオプションを有効にする場合は、デフォルト (Yes) のまま Enter キーを押します。それ以外の場合は、「No」と入力して、Enter キーを押します。
15. 手順 6 で、独自の JDK を使用することにした場合は、システムでその JDK をインストールしたディレクトリへの絶対パスを入力します。

Sun ONE Web Server 6.1 で Java を使用するには、JDK バージョン 1.4.1 以降が必要です。

指定したディレクトリに JDK があらかじめ存在している必要があります。

カスタム JDK が標準的なツリー構造のディレクトリにある場合は、Enter キーを押して、インストールを続行できます。カスタム JDK がある場所が標準的なツリー構造になっていない場合は、ここで libjvm.so (または libjvm.sl) が格納されているディレクトリの絶対パスを入力する必要があります。

16. インストールプログラムによる Sun ONE Web Server コンポーネントの抽出およびインストールが完了したら、Enter キーを押します。
17. サーバルートディレクトリ (/opt/SUNWwbsvr/ など) 内の https-admserv ディレクトリに移動し、./start と入力して管理サーバーを起動します。

サーバルートディレクトリで ./startconsole と入力することもできます。

startconsole により、管理サーバーおよびブラウザが起動して、管理サーバーの管理ページが表示されます。

Sun ONE Web Server を設定するには、次の URL を使用します。

```
http://server_name:administration_port
```

その例を次に示します。http://www.sun.com:5566

管理ユーザー名およびパスワードを入力します。

これで、使用する Sun ONE Web Server が設定可能になりました。Sun ONE Web Server 6.1 を構成および使用方法については、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

## 高速インストール

ユーザーが初心者であるか、製品の評価目的で使用する場合には、高速インストールを選択してください。高速インストールでは、ポート番号やインストールするコンポーネントがあらかじめ設定されています。デフォルトでは、付属の JDK が使用されます。

次の表に、高速インストールでの既定値を示します。既定値とは異なる値を設定する場合は、標準またはカスタムインストールを使用してください。

表 3-1 高速インストールの設定

インストール設定	値
管理ポート	8888
管理 URL	<code>http://machine name:administration port</code>
HTTP ポート番号	80
ドキュメントのルートディレクトリ	<code>server_root/docs</code>
サーバーを実行する UNIX ユーザー	root
サブコンポーネント	デフォルトサブコンポーネントをすべてインストール

---

**警告** 高速インストールを実行するには、root でログインする必要があります。

---

setup を実行するには、次の手順を実行します。

1. ファイルを展開したディレクトリに移動します ( ファイルを展開したディレクトリにまだ移動していない場合 )。
2. `./setup` と入力して、サーバーのインストールを開始します。  
開始画面が表示されます。
3. Enter キーを押して、インストールを続行します。
4. ソフトウェアのライセンス条項を受け入れる場合は「Yes」を、受け入れない場合は「No」を入力します。ライセンス条項を確認していない場合は、インストールを中止して、setup プログラムと同じディレクトリにある LICENSE.txt ファイルをお読みください。
5. 「Express Installation」を選択して Enter キーを押します。
6. サーバルートディレクトリを入力するか、デフォルトディレクトリ (`/usr/iplanet/servers`) を受け入れます。  
  
このディレクトリに、サーバーファイルおよびディレクトリ構造がインストールされます。root は、このディレクトリへの書き込み権限を持っている必要があります。
7. すべてのコンポーネントを選択します。  
Enter キーを押します。

8. Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスの実行時に使用する UNIX ユーザーおよびグループ名を入力します。

高速インストールの場合、このユーザーは root でなければなりません。グループには、root が所属するグループを指定する必要があります。

9. 管理サーバーの実行時に使用する UNIX ユーザー名を入力します。

たいていの場合、このユーザーは root です。

10. 認証に使用する管理サーバーのユーザー名およびパスワードを入力します。パスワードを 2 度入力するよう求められます。

11. インストールプログラムによる Sun ONE Web Server コンポーネントの抽出およびインストールが完了したら、Enter キーを押します。

12. サーバルートディレクトリ (/opt/SUNWwbsvr/ など) 内の https-adminserv ディレクトリに移動し、./start と入力して管理サーバーを起動します。サーバルートディレクトリで ./startconsole と入力することもできます。

startconsole により、管理サーバーおよびブラウザが起動して、管理サーバーの管理ページが表示されます。

13. Sun ONE Web Server を設定するには、次の URL を使用します。

`http://server_name:administration_port`

その例を次に示します。http://www.sun.com:8888

管理ユーザー名およびパスワードを入力します。

これで、使用する Sun ONE Web Server が設定可能になりました。詳細は、Sun ONE Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

## 複数のマシンへのインストール

複数のマシンに Web Server をインストールする場合、テンプレートインストールとサイレントインストールの2つの方法があります。

テンプレートインストールはローカルマシンで実行します。この場合、インストールプログラムは複数のリモートマシンで同時に実行され、メッセージは表示されません。

サイレントインストールでは、最初にローカルマシンに Web サーバーをインストールする必要があります。次に、リモートマシンに合わせてインストールの結果生成されたログファイル `install.inf` を編集します。サイレントインストールでは、リモートインスタンスを個別にインストールする必要があります。

ここでは、両方のインストール方法を説明します。

- [テンプレートインストールの使用](#)
- [サイレントインストールの使用](#)

## テンプレートインストールの使用

テンプレートインストールを使用するには、`template.inf` と呼ばれるテンプレートファイルに、各リモートマシン用のインストール設定を入力します。次にそのテンプレートを使用して、ローカルマシンの単一セッションから複数のマシンに Web サーバーをインストールします。

`template.inf` ファイルは、セットアッププログラムと同じディレクトリにあります。

テンプレートインストールを行うには、次の手順を実行します。

1. ローカルマシンの `/.rhosts` ディレクトリに、Web サーバーをインストールする各リモートマシン用のエントリを、次の書式で作成します。

```
remote_machine_name username
```

たとえば、リモートマシンがドメイン `dogs` の `host1` であり、`root` でログインする場合、次の情報を入力します。

```
host1.dogs.com root
```

2. ローカルマシンの `/etc/hosts.equiv` ディレクトリに、Web サーバーをインストールする各リモートマシン用のエントリを、次の書式で作成します。

```
remote_machine_name
```

たとえば、リモートマシン名がドメイン `dogs` の `host1` である場合、次の情報を入力します。

```
host1.dogs.com
```

3. Web サーバーをインストールする各リモートマシンの `/.rhosts` ディレクトリに、ローカルマシンのエントリを、次の書式で作成します。

```
local_machine_name username
```

たとえば、ローカルマシン名がドメイン `dogs` の `chewbacca` であり、`root` でログインする場合、次の情報を入力します。

```
chewbacca.dogs.com root
```

4. Web サーバーをインストールする各リモートマシンの `/etc/hosts.equiv` ディレクトリに、ローカルマシンのエントリを、次の書式で作成します。

```
local_machine_name
```

たとえば、ローカルマシン名がドメイン `dogs` の `chewbacca` である場合、次の情報を入力します。

```
chewbacca.dogs.com
```

5. ローカルマシンで、サーバールートへのリンクを持つセットアップディレクトリを作成します。

```
ln -s server_root/ setup-directory
```

6. `setup` の存在するディレクトリへ移動します。

7. `template.inf` ファイルを開きます。

8. インストール設定を入力します。

- **HostNames:** Web サーバーをインストールするホスト名。コンマで区切って指定します。

```
host1,host2,host3
```

- **Components:** インストールするコンポーネント。コンマで区切って指定します。

```
webcore,jdk,cleanup
```

- **SetUpLocation:** テンプレートファイルにより使用されるセットアッププログラムの場所

ホストごとに、次の情報を入力します。

- **[hostname]:** テンプレートを使用して Web サーバーがインストールされるマシン名

- **InstallType:** 実行するインストールタイプ。高速インストールの場合は [1]、標準インストールの場合は [2]、カスタムインストールの場合は [3] のいずれかの番号を指定します。

- **SuiteSpotUserID:** Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスの実行時に使用されるユーザー ID

- **SuiteSpotGroup:** Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスを実行するユーザーが所属するグループ

- **ServerRoot:** サーバーのインストール先ディレクトリ。  
/opt/SUNWwbsvr/
- **HttpDocRoot:** Sun ONE Web Server インスタンスのドキュメントルート。  
/opt/SUNWwbsvr/docs

コアサーバーの場合、次の情報を入力します。

- **AdminPort:** 管理サーバーのポート番号
  - **HttpPort:** Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスのポート
  - **AdminSysUser:** 管理サーバーの実行時に使用されるユーザー ID。ユーザーが Directory Server 内に存在すること、および Directory Server を使用してユーザーおよびグループ管理タスクを実行するためのアクセス権限を持っている必要があります (例: root)。
  - **AdminName:** 管理サーバーの管理画面にアクセスするときに使用するユーザー名 (例: admin)
  - **AdminPassword:** 管理サーバーの管理画面にアクセスするときに使用するパスワード (例: admin)
9. コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、インストールラッパーを実行します。

```
path_to_perl_executable/perl installWrapper -f template.inf
```

---

**注**           installWrapper は Perl スクリプトです。

---

template.inf ファイルの例を、次に示します。

```

[ MachineName]
HostNames = draco.sun
Components=webcore,snmp,cleanup
SetUpLocation=/Sun/WebServer/P20030814.1
[iws-intern3]
InstallType= 2
SuiteSpotUserID= nobody
SuitespotGroup= nobody
SecurityCheck= False
RequireDomain= False
InstallWhich= 1
ServerRoot=/Sun/WebServer/tmpl_inst/SUNWwbsvr
HttpDocRoot=/Sun/WebServer/tmpl_inst/SUNWwbsvr/docs
JDK_DIR=/usr/j2se
[core]
Upgrade= False
Reinstall= False
AdminPort= 20000
HttpPort= 20001
AdminSysUser= root
AdminName= admin
AdminPassword= admin
UgLdapUse= No
CompVersions= 2:2:1:2:2:1:1:2:
[cleanup]
Archive= cleanup.zip

```

## サイレントインストールの使用

サイレントインストールは複数の Sun ONE Web Server インスタンスをインストールする場合、テンプレートインストールほど効率的ではありません。サーバーのリモートインスタンスが、一度に複数インストールされるのではなく、個別にインストールされるためです。サイレントインストールを行う場合、セットアッププログラムのプロンプトへの応答ファイルを作成し、そのファイル (install.inf) を編集して、以降の Sun ONE Web Server のインストールに使用します。サイレントインストールでは、最初にローカルマシンに Sun ONE Web Server をインストールする必要があります。次に、サーバーの追加インスタンスをインストールするリモートマシンに合わせて install.inf を編集します。多数のリモートマシンに Sun ONE Web Server をインストールする場合は、テンプレートインストールの使用をお勧めします。

サイレントインストールは、標準インストールを使用し、各インストールがすべて類似しているときに使用します。

---

**警告** `install.inf` ファイルには、管理サーバーへのログインに使用されるパスワードが含まれています。このパスワードは暗号化されていないプレーンテキストです。サイレントインストールを使用する場合は、作業が完了したら、`install.inf` ファイルを必ず削除してください。

---

サイレントインストールを使用するには、次の手順を実行します。

1. `-k` オプションを付けてセットアッププログラムを実行します。このオプションにより、インストーラのプロンプトへのすべての応答を含んでいる `install.inf` という名前のファイルが作成されます。コマンドプロンプトで、次のように入力します。

```
./setup -k
```

2. インストーラのプロンプトに回答して、Sun ONE Web Server をインストールします。
3. サーバーがインストールされたら、`install.inf` ファイルの存在する `server_root/setup` ディレクトリに移動します。
4. 次の Sun ONE Web Server をインストールするためにセットアッププログラムを実行するディレクトリに、`install.inf` ファイルをコピーします。
5. `install.inf` ファイルの値を編集して、次にインストールするサーバーの値と一致するようにします。

たとえば、マシン名、ポート番号、インストールディレクトリなどを変更します。

6. `install.inf` ファイルを入力用に使用して、セットアッププログラムを実行します。その例を次に示します。

```
./setup -s -f install.inf
```

7. サーバーがインストールされます。

`install.inf` ファイルの例を次に示します。



```

[General]
FullMachineName= draco.india.sun.com
SuiteSpotUserID= webservd
SuitespotGroup= webservd
ServerRoot= /Sun/WebServer
SecurityCheck= False
RequireDomain= False
Components= WebServer

[WebServer]
Upgrade= False
SuiteSpotUserID= webservd
SuiteSpotGroup= webservd
AdminPort= 4600
HttpPort= 4601
HttpDocRoot= /Sun/WebServer/docs
StartOnBoot= n
JDK_DIR= /Sun/WebServer/bin/https/jdk
JDK_LIBPATH=
AdminSysUser= root
AdminName= admin
AdminPassword= admin
CompVersions= 2:2:1:0:0:
Components= webcore,JDK,cleanup

[cleanup]
Archive= cleanup.zip

```

次の表に、編集に使用できる `install.inf` パラメータを示します。最良の結果を得るために、この表にあるパラメータ以外はできるだけ編集しないでください。

**表 3-2** サイレントインストールのパラメータ

パラメータ名	使用法
FullMachineName	マシン名
SuiteSpotUserID	Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスの実行時に使用されるユーザー ID
SuiteSpotGroup	Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスを実行するユーザーが所属するグループ
ServerRoot	サーバーのインストール先ディレクトリ

表 3-2 サイレントインストールのパラメータ ( 続き )

パラメータ名	使用法
AdminPort	管理サーバーのポート
HttpPort	Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスのポート
HttpDocRoot	Sun ONE Web Server インスタンスのドキュメントルート
AdminSysUser	管理サーバーの実行時に使用されるユーザー ID
AdminName	管理サーバーの管理画面のアクセスに使用されるユーザー名
AdminPassword	管理サーバーの管理画面のアクセスに使用されるパスワード
JDK_DIR	JDK のインストール先ディレクトリ

## Sun ONE Web Server のデフォルトのディレクトリ

Sun ONE Web Server 製品をインストールすると、デフォルトでサーバールートディレクトリの下に次の 2 つの Web サーバーインスタンスがインストールされます。

- Web サーバーインスタンス
- 管理用の Web サーバーインスタンス ( 管理サーバーとも呼ばれる )

Web サーバーインスタンスのファイルは、インストールディレクトリの下にある `https-host.domain` ディレクトリに格納されています。

管理サーバーインスタンスのファイルは、インストールディレクトリの下にある `https-admserv` ディレクトリに格納されています。

作成される設定ファイルの詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

# UNIX でのアンインストールの実行

アンインストールアプリケーションを使用して、コンピュータから Sun ONE Web Server を削除できます。

---

**警告**

個別のサブコンポーネントを選択して削除することは可能ですが、お勧めしません。アンインストーラは、選択したサブコンポーネントに関するコードの一部を削除するだけで、設定ファイルの更新は行いません。このため、サブコンポーネントを個別にアンインストールすると、サーバーが動作しなくなる可能性があります。

---

Sun ONE Web Server を削除するには、次の手順を実行します。

1. サーバルートに移動して、`./uninstall` と入力します。

その場所にインストールされている Sun ONE サーバーのリストが表示されます。

2. このリストで Sun ONE Web Server を検索し、その番号をプロンプトに入力します。

管理サーバーは Sun ONE Web Server のインスタンスであるため、Sun ONE Web Server をアンインストールすると、管理サーバーも自動的にアンインストールされます。

インストール済みの Sun ONE Web Server サブコンポーネントのリストが表示されます。

3. すべてのサブコンポーネントを選択し、**Return** キーを押します。

サブコンポーネントがアンインストールされ、コマンドプロンプトが表示されます。

---

**注**

アンインストールプログラムは、すべてのサーバーファイルを削除するわけではありません。たとえば、鍵や証明書、設定ファイル、ログ、ACL ファイルまたはドキュメントルートは、削除されません。

---



# Windows への Sun ONE Directory Server のインストール

この章では、Windows に Sun ONE Web Server をインストールする方法を説明します。この章は、次の節から構成されています。

- [Windows へのインストール](#)
- [サイレントインストールの使用](#)
- [Sun ONE Web Server のデフォルトのディレクトリ](#)
- [Windows でのアンインストールの実行](#)

## Windows へのインストール

ここでは、Sun ONE Web Server のインストール方法について説明します。

サーバーの起動時に発生するエラーは、イベントビューアに記録されます。サーバー起動後のエラーは、通常のエラーログファイルに記録されます。

次の点に注意してください。

- 以前のバージョンの Netscape または Sun ONE Web サーバーがインストールされている場合は、4.x iPlanet Web Server を別のサーバールートディレクトリにインストールする必要があります。
- Early Access 版の Sun ONE サーバーがインストールされている場合は、アンインストールしてから最終バージョンをインストールします。
- DLL の競合を回避するため、Sun ONE Web Server 6.1 を iPlanet Web Server 4.x と同じマシンにインストールする場合は、Sun ONE Web Server 6.1 への移行後に 4.x をアンインストールします。iPlanet Web Server 4.x をアンインストールする際、共有の d11 ファイルを削除しないでください (メッセージが表示されたら、「すべていいえ」を選択します)。削除すると、あとで Sun ONE Web Server 6.1 をアンインストールする際に障害が発生します。

- 以前のバージョンの Sun ONE Web サーバーがインストールされている場合は、管理サーバーおよび Enterprise Server のインスタンスを停止してから、Sun ONE Web Server 6.1 をインストールします。
- SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用して Sun ONE Web Server を監視する場合は、Sun ONE Web Server をインストールする前に、Windows SNMP コンポーネントがインストールされていることを確認します。

## ファイルの解凍

Sun ONE Web Server のファイルを入手して解凍するには、次の手順を実行します。

### Sun ONE Web Server, Enterprise Edition CD からのインストール

1. Sun ONE Web Server CD をドライブに挿入します。CD-ROM ドライブのアイコンをクリックします。
2. Windows フォルダをダブルクリックします。
3. setup フォルダをダブルクリックします。  
setup.exe ファイルがこのフォルダ内にあります。

### ダウンロードしたサーバーのインストール

1. sun-webserver61-win.zip ファイルを一時ディレクトリにダウンロードおよび解凍して保存します。
2. setup.exe ファイルをダブルクリックして解凍し、インストールプログラムを起動します。

## setup.exe の実行

setup.exe プログラムを実行し、Sun ONE Web Server をインストールします。

1. setup.exe ファイルをダブルクリックします。
2. 「Welcome」画面が表示されます。「Welcome」画面を読み終えたら、「Next」をクリックします。
3. ソフトウェア使用許諾契約が表示されます。「Yes」をクリックして契約に同意します。

4. 「Select Installation Type」画面が表示されます。インストーラのタイプを選択します。インストーラのタイプには、高速 (Express)、標準 (Typical)、およびカスタム (Custom) があります。

ユーザーが初心者であるか、製品の評価目的で使用する場合には、高速インストーラを選択してください。高速インストーラでは、ポート番号やインストールするコンポーネントがあらかじめ設定されています。このオプションは、本稼動環境でサーバーを使用する場合にはお勧めできません。

標準インストーラとカスタムインストーラには、このリリースでも多数のオプションが用意されています。

高速インストーラを選択すると、次の設定値が自動的に設定されます。デフォルトでは、付属の JDK (Java Development Kit) が使用されます。別の設定値が必要な場合は、標準またはカスタムインストーラを選択します。

表 4-1 高速インストーラの設定

インストール設定	値
管理ポート	8888
管理 URL	<code>http://machine name : administration port</code>
HTTP ポート番号	80
ドキュメントのルートディレクトリ	<code>server_root/docs</code>
サブコンポーネント	デフォルトサブコンポーネントをすべてインストール

**警告**      すでにポート 80 でほかの Web サーバーが動作している場合は、高速インストーラを使用しないでください。

「Next」をクリックします。

5. 「Location of Installation」ダイアログボックスが表示されます。サーバーファイルのデフォルトの場所は、C:\Sun\WebServer6.1 です。

デフォルト以外の場所に Sun ONE Web Server をインストールする場合は、「Browse」を使用してフォルダを移動するか、フィールドに名前を入力します。存在しないフォルダを指定すると、インストールプログラムはフォルダを作成するかどうかたずねます。

---

**警告** Web サーバーのインストール先のパスに空白文字が含まれていないことを確認します。たとえば、C:\Program Files のような空白文字が含まれているディレクトリ名は、製品のインストール先として選択しないでください。

---

「Next」をクリックします。

6. 「Components to Install」ダイアログボックスが表示されます。リストから Web Server を選択します。

管理サーバーは Sun ONE Web Server インスタンスになっているので、Sun ONE Web Server のインストール時に自動的にインストールされます。したがってこの製品リストには含まれていません。

サブコンポーネントを変更しなかった場合、またはサブコンポーネントの選択が完了した場合は、「Next」をクリックして手順 8 に進みます。

iPlanet Web Server 4.1 からの移行時にサブコンポーネントをインストールする場合は、4.1 でインストールしたすべてのサブコンポーネントをインストールする必要があります。そうしないと、正常に動作しない場合があります。サブコンポーネントを追加してインストールすることもできます。

7. 前の画面で「Change」をクリックすると、「Select Sub-Components」ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、次のサブコンポーネントがインストールされます。
  - **Server Core:** 管理サーバーおよび Sun ONE Web Server の最初のインスタンスをインストールします。
  - **JDK (Java Development Kit):** Sun ONE Web Server 6.1 では、JDK バージョン 1.4.1\_03 がバンドル製品として提供されています。提供された JDK をインストールすることも、独自の JDK を使用することもできます。

サブコンポーネントを選択したら、「Continue」をクリックして、「Components to Install」ダイアログボックスに戻ります (手順 6)。



8. 管理サーバーのアクセス用のユーザー名を入力します。デフォルトは「admin」です。管理サーバーのアクセス用のパスワードを入力します。確認のためパスワードをもう一度入力します。

LDAP ベースの認証を使用する場合は、このユーザーが LDAP サーバーにアクセスしてユーザーまたはグループの管理タスクを実行する権限を持っていることを確認する必要があります。

高速インストールを選択した場合は、[手順 12](#)に進みます。

「Next」をクリックします。

9. 管理サーバーを実行するポート番号を入力します。1 ~ 65535 の任意の番号を使用できます。管理アクセス用の URL が表示されます。この URL をメモしておくことをお勧めします。デフォルトポートは 8888 です。

システムに iPlanet Web Server 4.x がインストールされている場合、iPlanet Web Server 4.x に使用したのと同じ管理サーバーのポート番号を Sun ONE Web Server 6.1 に使用しないでください。

ポートについては、[23 ページ](#)の「[一意のポート番号の選択](#)」を参照してください。

「Next」をクリックします。

10. 「Default Web Server」ダイアログボックスが表示されます。Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスが自動的にインストールされます。

Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスのポート番号を入力します。このポートは、管理サーバーのポートとは別にする必要があります。デフォルトポート (ポート 80) 以外のポートを使用する場合、ホームページへのアクセスに使用する URL が変更されます。たとえば、使用するコンピュータが `www.sun.com` で、ポート 9753 を選択した場合、サーバーの URL は、`http://www.sun.com:9753/` になります。

ポートについては、[23 ページ](#)の「[一意のポート番号の選択](#)」を参照してください。

デフォルトサーバーのプライマリドキュメントディレクトリのパスを入力します。このディレクトリにはサーバーのコンテンツファイル (サーバーにアクセスするユーザーに提供するイメージ、HTML ドキュメントおよびデータ) が格納されています。デフォルトは、`C:\server_root\docs` です。「Browse」をクリックしてファイルシステムを移動します。

11. 「JDK Configuration」 ダイアログボックスが表示されます。

Sun ONE Web Server に付属の JDK (JDK 1.4.1\_03) を使用することも、システムにインストールされているカスタム JDK を使用することもできます。

Sun ONE Web Server 6.1 で Java を使用するには、JDK バージョン 1.4 以降が必要です。

カスタム JDK を使用するには、「Use Custom Java Development Kit」チェックボックスにチェックマークを付け、JDK をインストールしたフォルダの絶対パスを入力します。たとえば、D:\jdk1.4¥ と入力します。カスタム JDK が標準的なツリー構造ではない場所に格納されている場合は、jvm.dll があるディレクトリの絶対パスを入力する必要があります。

12. 「Configuration Summary」 ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスには、Sun ONE Web Server および管理サーバーの設定に関する情報が含まれています。また、インストール対象として選択した Sun ONE Web Server コンポーネントのリストも含まれています。

このダイアログボックスを使用して、インストールを完了する前に設定内容を確認できます。設定内容が正しければ、「Install」をクリックします。設定内容を変更する場合は、「Back」をクリックして情報を修正します。

サーバーファイルがインストールされます。

---

注

ファイルのコピー中は、インストールプロセスを中止しないでください。コピー中に中止すると、インストールが不完全になり、ファイルを削除する必要があります。Sun ONE Web Server のアンインストーラがある場合は、そのアンインストーラを使用して、インストールした Sun ONE Web Server をアンインストールします。アンインストーラがない場合は、手動でサーバールートの手元のすべてのファイルを削除します。

---

13. 「Setup Complete」 ダイアログボックスが表示されます。

Readme ファイルを表示する場合は、「View Readme」チェックボックスにチェックマークを付けたままにして (デフォルトの設定)、「Finish」をクリックします。

Readme ファイルには、Sun ONE Web Server 6.1 の最新のリリースノートに関する記載が含まれています。

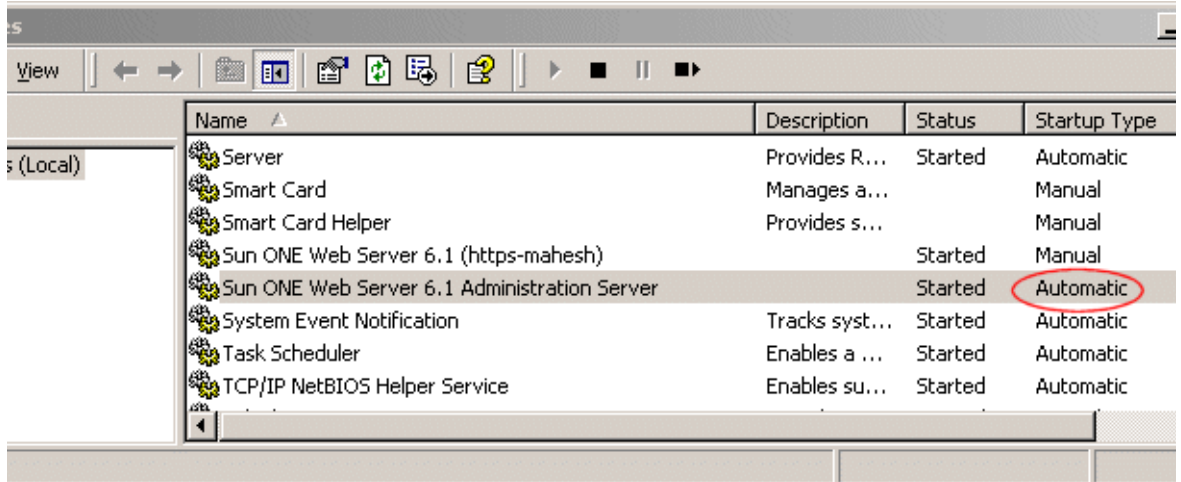
管理サーバーは次のいずれかの方法で起動できます。

- 「スタート」メニューから、「プログラム」、「Sun ONE Web Server」を順に選択し、「Start Web Server Administration Server」を選択する

- 。 コントロールパネルの「サービス」から起動する

再起動後にサーバーを自動的に起動するには、次の図に示すように、コントロールパネルの「サービス」でサービスの「スタートアップの種類」を「自動」に変更します。

サービスのスタートアップの種類の変更



14. マシンを再起動するか、コントロールパネルの「サービス」を使用して Sun ONE Web Server を起動します。

15. Sun ONE Web Server を設定するには、次の URL を使用します。

`http://server_name:administration_port`

例: `http://www.sun.com:8888`

サーバーを管理するための管理ユーザー名とパスワードを入力します。

これで、使用するサーバーが設定可能になりました。詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

# サイレントインストールの使用

複数の Sun ONE Web Server をインストールする場合は、サイレントインストールを使用して、設定プログラムのプロンプトに対する応答ファイルを作成できます。その `install.inf` ファイルを編集して、以降の Sun ONE Web Server のインストールに使用できます。

サイレントインストールは、標準インストール (Typical Installation) を使用し、各インストールがすべて類似しているときに使用します。

---

**警告** `install.inf` ファイルには、管理サーバーにログオンするときに使用するパスワードが含まれています。このパスワードは暗号化されていないプレーンテキストです。サイレントインストールを使用する場合は、作業が完了したら、`install.inf` ファイルを必ず削除してください。

---

Sun ONE Web Server は自己解凍の `.exe` ファイルとしてダウンロードされるので、`setup.exe` を実行する前にまずファイルを解凍する必要があります。このファイルを解凍するには、次の手順を実行します。

1. 自己解凍の `.exe` ファイルをダブルクリックしてインストーラを起動します。
2. インストーラを起動すると、ファイルが `TEMP` ディレクトリに解凍されます。インストーラを終了しないで、`TEMP` ディレクトリに移動し、インストールファイルを別の場所にコピーします。
3. ファイルをコピーしたら、インストーラを終了します。

これで、コピーした `setup.exe` を使用して `install.inf` ファイルを作成できます。

サイレントインストールを使用するには、次の手順を実行します。

1. コマンド行から、`-k` オプションを付けてセットアッププログラムを実行します。このオプションにより、インストーラのプロンプトへのすべての応答を含んでいる `install.inf` というファイルが作成されます。コマンドプロンプトで、次のように入力します。

```
setup.exe -k
```

2. インストーラのプロンプトに応答し、Sun ONE Web Server をインストールします。
3. サーバーがインストールされたら、`install.inf` ファイルの存在する `server_root/setup` ディレクトリに移動します。
4. 次の Sun ONE Web Server をインストールするためにセットアッププログラムを実行するディレクトリに、`install.inf` ファイルをコピーします。

- install.inf ファイルの値を編集して、次にインストールするサーバーの値と一致するようにします。

たとえば、ポート番号やインストールディレクトリなどを変更します。

- install.inf ファイルを入力用に使用して、セットアッププログラムを実行します。その例を次に示します。

```
setup.exe -s -f install.inf
```

- サーバーがインストールされます。

install.inf ファイルの例を次に示します。

```
[General]
Components=svrcore,WebServer
ServerRoot=d:\servers\slws61-0815

[WebServer]
Components=WebCore,JDK,CleanUp
AdminPort=8888
HttpPort=80
HttpDocRoot=d:/servers/slws61-0815/docs
AdminName=admin
AdminPassword=admin
UgLdapUse=FALSE
JDK_DIR=d:/servers/slws61-0815/bin/https/jdk
JDK_LIBPATH=
JDK_CLASSPATH=

[CleanUp]
Archive=cleanup.zip
```

次の表に、編集に使用できる install.inf パラメータを示します。最良の結果を得るために、この表のパラメータ以外はできるだけ編集しないでください。

**表 4-2** サイレントインストールのパラメータ

パラメータ名	使用法
ServerRoot	サーバーのインストール先ディレクトリ
AdminPort	管理サーバーのポート
HttpPort	Sun ONE Web Server のデフォルトインスタンスのポート
HttpDocRoot	Sun ONE Web Server インスタンスのドキュメントルート

表 4-2 サイレントインストールのパラメータ ( 続き )

パラメータ名	使用法
AdminName	管理サーバーの管理画面にアクセスするときに使用されるユーザー名
AdminPassword	管理サーバーの管理画面にアクセスするときに使用されるパスワード
JDK_DIR	JDK のインストール先ディレクトリ

## Sun ONE Web Server のデフォルトのディレクトリ

Sun ONE Web Server をインストールすると、デフォルトでインストールディレクトリの下に次の 2 つの Web サーバーインスタンスがインストールされます。

- Web Server インスタンス
- 管理用の Web サーバーインスタンス ( 管理サーバーとも呼ばれる )

Web サーバーインスタンスのファイルは、インストールディレクトリの下にある `https-host.domain` ディレクトリに格納されます。

管理サーバーインスタンスのファイルは、インストールディレクトリの下にある `https-admserv` ディレクトリに格納されます。

作成される設定ファイルの詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

# Windows でのアンインストールの実行

Sun ONE Web Server を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」メニューから、「コントロールパネル」、「プログラムの追加と削除」、「Sun ONE Web Server」を順に選択します。

または

「スタート」メニューから、「プログラム」、「Sun ONE Web Server」、「Uninstall Web Server」を順に選択します。

2. 「Sun ONE Uninstall」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、このディレクトリにインストールされている Sun ONE Web Server がすべて表示されます。Web Server の横のチェックボックスを選択し、「Uninstall」をクリックします。Sun ONE Web Server をアンインストールすると、管理サーバーが自動的にアンインストールされるので注意してください。これは、管理サーバーが Sun ONE Web Server のインスタンスであるためです。
3. アンインストールプログラムによってサーバーがアンインストールされます。ウィンドウにアンインストールの進行状況が表示されます。
4. アンインストールが完了すると、設定ファイルが削除されていないこと、およびサーバーをインストールし直す前に設定ファイルの名前を変更する必要があることを示すメッセージが表示されます。「OK」をクリックして処理を続行します。

---

**注** アンインストールプログラムは、すべてのサーバーファイルを削除するわけではありません。たとえば、鍵や証明書、設定ファイル、ログ、ACL ファイルまたはドキュメントルートは、削除されません。

---





# バージョン 6.0 から 6.1 への移行

この章では、Sun ONE Web Server 6.0 から 6.1 に移行する場合の変更点を理解する上で役立つ移行情報について説明します。

この章は、次の節から構成されています。

- [移行の概要](#)
- [設定値およびデータの移行](#)
- [移行されない情報](#)
- [Sun ONE Web Server 6.1 の変更点の概要](#)

## 移行の概要

次の Sun ONE Web Server 6.0 の情報を移行して、Sun ONE Web Server 6.1 で使用できます。

- ドキュメントルート
- 設定スタイル情報
- 仮想サーバーの設定
- アクセス制御リスト (ACL) 情報
- SSL (Secure Socket Layer) 情報
- 証明書および鍵
- NSAPI 情報
- JSP (JavaServer Pages)
- サーバーサイド HTML (SHTML)
- SNMP (Simple Network Management Protocol) 設定 (snmp.conf ファイル)

- ファイルキャッシュの調整の設定 (nsfc.conf ファイル)

## 設定値およびデータの移行

---

**警告** 移行の前にすべてのサーバーインスタンスを停止してください。

---

設定値およびデータを 6.0 サーバーから 6.1 に移行するには、次の手順に従います。

1. 「Administration Server」 ページで、「Migrate Servers」 タブをクリックします。

2. 「Migrate Server」をクリックします。

「Migrate Server」 ページ



3. 移行元サーバーのサーバールートを入力して「Search」をクリックします。その例を次に示します。

/usr/netscape/server4

C:\netscape¥server4

Sun ONE Web Server は、指定したディレクトリにインストールされているサーバーインスタンスがあるかどうかを検出し、移行可能なサーバーをインストール済みサーバーのページに表示します。管理サーバーを移行することはできません。

4. ドロップダウンリストからサーバーを選択し、「Migrate」をクリックします。

移行するサーバーの選択

Servers Preferences Global Settings Users and Groups

Manage Servers

Add Server

Remove Server

Migrate Server

### Migrate Server

Enter the path to the root directory of the Enterprise Server you wish to migrate.

Server Root:  Search

### Installed Servers

Select a Server to Migrate:  Migrate

5. 新しく表示される「Migration Parameters」ウィンドウで、移行パラメータを指定します。

移行パラメータの指定

### Migration Parameters

Server Name:

Run Server As:

### Document Root

Please select a document root. If you do not use the old server's document root, the documents on the old server will not be visible from the migrated server. Should you wish to revert back to the old server's document root, you can always set the primary document root to the old server's document root from the Content Management tab in the Web Server Administration Server.

Document Root:  Use the same document root as the old server  
 Use the new server's document root

### Search Collections

6.1 has a new Search Engine (Nova). Hence search migration is not supported. Please refer Search document for details.

### Java

フォームに表示されるセクションは、Web Server 6.0 で使用している機能、およびインストールしたコンポーネントによって異なります。次に、表示される可能性のあるパラメータセクションを示します。

- 一般的な移行パラメータ
- ドキュメントルート

- Java

詳細は、オンラインヘルプの「[「Migration Parameters」](#) ページ」を参照してください。

6. 「Migrate」をクリックします。

「Migrate server\_name」ページが表示されます。正常に移行されたパラメータおよび手動で移行する必要のあるパラメータなど、移行の結果が表示されます。6.1 ではサポートされない 6.0 サーバーの機能も表示されます。

移行時に重大なエラーが発生しても、移行は続行されます。発生したエラーが結果のページに表示されるので、この情報を障害追跡に使用できます。

7. 「Configure Migrated Server」をクリックし、移行されたサーバーインスタンスをサーバーマネージャで設定するか、「Close」をクリックして移行ウィンドウを閉じます。

## 移行されない情報

移行プロセスでは、次の情報は移行されません。

- 4.x スタイルの古いバージョンのサブレット  
詳細は、[70 ページの「古いバージョンのサブレット」](#)を参照してください。
- 検索コレクションおよびインデックス  
詳細は、[71 ページの「検索の移行」](#)を参照してください。
- コマンド行スクリプト  
詳細は、[64 ページの「コマンド行スクリプト」](#)を参照してください。
- cron 制御の設定  
詳細は、[69 ページの「cron 制御」](#)を参照してください。
- 証明書マッピング  
詳細は、[65 ページの「certmap.conf」](#)を参照してください。
- 一部の設定ファイル  
詳細は、[64 ページの「設定ファイル」](#) および [68 ページの「Sun ONE Web Server 6.1 で削除される設定ファイル」](#)を参照してください。
- シンプルセッションマネージャおよび JDBC セッションマネージャ  
詳細は、[71 ページの「セッションマネージャ」](#)を参照してください。
- server.xml ファイルでの接続グループの設定

詳細は、[68 ページの「接続グループの設定」](#)を参照してください。

- [CGIstub ディレクトリ](#)

詳細は、[63 ページの「CGIstub ディレクトリ」](#)を参照してください。

## Sun ONE Web Server 6.1 の変更点の概要

Sun ONE Web Server 6.0 から Sun ONE Web Server 6.1 に情報を移行すると、次の領域で変更が生じます (アルファベット順に記述します)。

- [CGIstub ディレクトリ](#)
- [コマンド行スクリプト](#)
- [設定ファイル](#)
- [接続グループの設定](#)
- [cron 制御](#)
- [Java の移行](#)
- [JSP \(Java Server Pages\)](#)
- [古いバージョンのサーブレット](#)
- [検索の移行](#)
- [セキュリティ](#)
- [セッションマネージャ](#)
- [設定ファイル内のシンボリックリンク \(UNIX および Linux\)](#)
- [Web アプリケーション](#)
- [WebDAV を使用した Web パブリッシング](#)

### CGIstub ディレクトリ

移行プロセスでは、CGIstub ディレクトリは移行されません。以前のサーバー上で CGI を設定した場合は、Sun ONE Web Server 6.1 に移行したあとで、CGIstub ディレクトリを手動で適切な場所にコピーする必要があります。

## コマンド行スクリプト

6.0 サーバーの起動スクリプトまたは停止スクリプトを修正した場合、その変更内容は移行プログラムでは移行されません。reconfig、restart、および rotate の各スクリプトについても同様です。

次の表に、Sun ONE Web Server 6.1 で使用できるコマンド行スクリプトと、その詳細情報の入手先であるマニュアルの一覧を示します。

コマンド行スクリプト	説明	詳細情報の入手先
start, startsvr.bat	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーバーインスタンスを起動する</li> <li>サーバーインスタンスごとに独自の起動スクリプトがある</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』
stop, stopsvr.bat	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーバーインスタンスを停止する</li> <li>サーバーインスタンスごとに独自の停止スクリプトがある</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』
restart	サーバーインスタンスを再起動する	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』
reconfig	サーバーを再起動せずにダイナミックに再設定する	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』
rotate	ログをローテーションさせる	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』
HttpServerAdmin	仮想サーバーを管理するためのコマンド行ユーティリティを表示する	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』

## 設定ファイル

次の表に、Sun ONE Web Server 6.1 の設定ファイルの一覧と概要を示します。現在のリリースでの変更点と詳細情報の入手先マニュアルも示します。



設定ファイル	説明	詳細情報の入手先
ACL ファイル <ul style="list-style-type: none"> <li>• generated-https-server-id.acl</li> <li>• genwork-https-server-id.acl</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 場所: <i>install-dir</i>/httpacl/</li> <li>• サーバーリソースを保護するためのアクセス制御リストを提供する</li> <li>• <i>dbswitch.conf</i> に定義されたデータベースを参照できる</li> <li>• ファイル名は <i>server.xml</i> で指定される</li> <li>• 移行時に、古い <i>server-root</i>/httpacl ディレクトリの ACL ファイルが、新しい <i>server-root</i>/httpacl ディレクトリにコピーされ、新しいインスタンス名が付けられる</li> <li>• <i>server.xml</i> ファイルの &lt;ACLFILE&gt; 要素に記載された、古い <i>server-root</i>/httpacl ディレクトリ内に存在するデフォルト以外の ACL ファイルは、新しい <i>server-root</i>/httpacl ディレクトリにコピーされる</li> </ul>	Access Control Programmer's Guide
certmap.conf	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 場所: <i>server_root</i>/bin/https/install/misc/</li> <li>• クライアント証明書を LDAP エントリにマッピングする方法を設定する</li> <li>• 移行されない。移行時に、移行するサーバーインスタンスの <i>certmap.conf</i> の既存のエントリを手動で移行する必要があることを示すメッセージが表示される</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』
dbswitch.conf	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 場所: <i>server_root</i>/userdb/</li> <li>• 認証データベースのリストを提供し、アクセス制御用にグループのメンバーを確認するために使用される</li> <li>• Web Server 6.0 から変更されていない</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』

設定ファイル	説明	詳細情報の入手先
<code>magnus.conf</code>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所: <code>server-id/config</code></li> <li>サーバーのプラグインライブラリの初期化パラメータとサーバーパラメータを定義する</li> <li>移行時に新しいサーバーのルートディレクトリにコピーされる</li> <li>移行時に、Sun ONE Web Server 6.1 は、組み込みロードモジュール関数を新しいインストールディレクトリから読み込むが、カスタムモジュールも引き続き古いインストールディレクトリから読み込む</li> <li>Web Server 6.0 でサポートされていたいくつかの <code>magnus.conf</code> 指令は、6.1 では推奨されません。</li> </ul>	<p>Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』(サポートされている指令および推奨されていない指令に関する説明)</p> <p>Sun ONE Web Server 6.1 の『NSAPI Programmer's Guide』(Init 指令に関する説明)</p>
<code>mime.types</code>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所: <code>install-dir/config/</code></li> <li>MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions) タイプとファイル拡張子のマッピングが含まれる</li> <li>移行時に、<code>/config</code> ディレクトリ内にある古いインスタンスの <code>mime.types</code> ファイルが、新しい <code>server-root/server-instance/config</code> ディレクトリに移行される</li> <li>古い <code>server-instance/config</code> ディレクトリ内にあり、<code>server.xml</code> の MIME 要素で指定されているデフォルト以外の <code>mime.types</code> (<code>mime1.types</code>、<code>mime2.types</code> など) は、新しい <code>server-instance/config</code> ディレクトリに移行される</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』
<code>nsfc.conf</code>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所: <code>server_root/https-admserv/config/</code></li> <li>ファイルのキャッシュパラメータを設定する</li> <li>Web Server 6.0 から変更されていない</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』

設定ファイル	説明	詳細情報の入手先
obj.conf	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所: <i>install-dir</i>/config/</li> <li>サーバーがクライアントからの HTTP 要求を処理する方法の指示、およびネイティブのサーバープラグインや CGI プログラムなどのサービス Web サーバーのコンテンツが含まれる</li> <li>仮想サーバークラスごとに設定され、<i>&lt;vs-name&gt;</i>.obj.conf の形式で名前が付けられる</li> <li>フィルタと WebDAV を設定するために Web Server 6.1 に追加された新しい指令と関数</li> <li>Search、JSP092、Webpub の各オブジェクトは移行されない</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『NSAPI Programmer's Guide』
server.xml	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所: <i>instance-dir</i>/config/</li> <li>サーバー設定の大半が含まれる</li> <li>移行時に、次のファイルの情報を含む server.xml ファイルが、新しい Web Server 6.1 インスタンスに作成される <ul style="list-style-type: none"> <li>- 古い server.xml ファイル</li> <li>- web-apps.xml</li> <li>- start-jvm</li> <li>- jvm12.conf</li> </ul> </li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』
*.clfilter	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所: <i>instance-dir</i>/config/</li> <li>古いバージョンの .clfilter ファイル (web-apps.xml.clfilter など) は移行されない</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』
obj.conf.clfilter		
magnus.conf.clfilter		
server.xml.clfilter		
secmod.db	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部のハードウェアアクセラレータにインポートされた証明書と鍵は、secmod.db ファイルに格納される。このファイルは、PKCS#11 モジュールをインストールしたときに生成される</li> <li>移行時に上書きされる</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』

設定ファイル	説明	詳細情報の入手先
<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセスログ</li> <li>エラーログ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーバーのログファイルには、サーバーの稼動状況が記録される</li> <li>移行時には、新しいアクセスログが作成される</li> <li>6.0 の <i>server-instance/logs</i> ディレクトリのエラーログは、6.1 の <i>server-instance/logs</i> ディレクトリにコピーされる</li> </ul>	Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』

## Sun ONE Web Server 6.1 で削除される設定ファイル

次の設定ファイルは、現在サポートされていないため、移行時に削除されます。

- rules.properties
- context.properties
- servlet.properties
- start-jvm
- jvm12.conf
- web-apps.xml
- web-apps.xml.cfilter
- webpub.conf
- webpub.conf.cfilter

## 接続グループの設定

Sun ONE Web Server 6.0 の各待機ソケットには、接続グループが1つ以上関連付けられていました。待機ソケットを作成すると、その待機ソケット用に指定したデフォルトの仮想サーバーを含んだ接続グループも作成されました。

Sun ONE Web Server 6.1 では、この接続グループ機能はなくなりました。現在は、仮想サーバーは待機ソケットに直接接続されます。したがって移行時には、各接続グループは LS (待機ソケット) 要素に移行されます。各 LS 要素には、接続グループの属性と待機ソケットの属性の両方から派生する属性が含まれます。

## cron 制御

Sun ONE Web Server 6.1 では、cron ファイルの名前が変更されました。Sun ONE Web Server 6.1 では、Web Server 6.0 の `ns-cron.conf` ファイルが `schedulerd.conf` に変わり、バージョン 6.0 の `cron.conf` ファイルが `scheduler.conf` に変わりました。これらのファイルは、`https-admserv/config/` ディレクトリに格納されています。

移行時には、以前のバージョンの Web サーバーの cron 設定は Sun ONE Web Server 6.1 に移行されません。これらの設定を保持する必要がある場合は、移行されたインスタンスの cron 設定をこれらの cron ファイルにコピーしてください。

## Java の移行

Sun ONE Web Server 6.1 では、6.0 リリースとは異なり、デフォルトで Java は有効になっています。また、以前の 6.0 リリースでは JDK のインストール全体の設定がサポートされていましたが、Sun ONE Web Server 6.1 ではサーバーのインスタンスごとに Java を有効にして設定することができます。

移行時に、Sun ONE Web Server 6.1 にバンドルされている JDK (JDK 1.4.1\_03) とカスタム JDK のどちらをインストールするかを選択できます。サーバーにカスタム JDK をインストールする場合、移行されたインスタンスの `javahome` の設定は、カスタム JDK パス (管理サーバーの `javahome` 設定から取得) を参照します。それ以外の場合、`javahome` の設定は、`/bin/https/jdk` を指します。

Sun ONE Web Server 6.1 では、JDK (Java Development Kit) のバージョン 1.4 以降がサポートされています。スタンドアロンの JRE (Java Runtime Environment) はサポートされていません。

Sun ONE Web Server 6.0 およびサービスパックリリースでは、JDK 設定データが `start-jvm` および `jvm.conf` の各ファイルに格納されていました。Sun ONE Web Server 6.1 では、このデータは `server.xml` ファイルに格納されています。

新しい `server.xml` ファイルの `JAVA` 要素には、移行されたインスタンスの `start-jvm` ファイルからコピーされた JDK 設定情報が入ります。

新しい `server.xml` ファイルの `JVMOPTIONS` 要素には、移行されたインスタンスの `jvm12.conf` ファイルからコピーされた JVM オプション情報が入ります。

以前のバージョンのサーバーが JDK 1.4.1 以降を使用するように設定されていた場合は、サーバーの `start-jvm` ファイルに含まれる `NSES_JDK` パスが Sun ONE Web Server 6.1 の `server.xml` ファイルにコピーされます。それ以外の場合、JDK パスは Sun ONE Web Server 6.1 のデフォルトの JDK パスである `server-root/bin/https/jdk` を指します。

start-jvm ファイルおよび jvm12.conf ファイルと Sun ONE Web Server 6.1 の server.xml ファイルのマッピングについては、Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

## JSP (Java Server Pages)

Sun ONE Web Server 6.1 は、JSP (JavaServer Pages) 1.2 仕様をサポートしています。JSP バージョン 0.92 を表す JSP092 オブジェクトは、Sun ONE Web Server 6.1 ではサポートされていないため、移行時に削除されます。

JSP 1.2 を使用したスタイルの例は、次のディレクトリにあります。  
server\_root/plugins/servlets/examples/web-apps/

## 古いバージョンのサーブレット

Sun ONE Web Server 6.1 は、Servlet 2.3 仕様をサポートしています。

Netscape Enterprise Server または iPlanet Web Server 4.0 および 4.1 は、Java Servlet 2.1 仕様をサポートしていました。この仕様には、Web アプリケーションは含まれていませんでした。サーブレットの配備を簡単に行うために、配備スキーマが開発されました。Java Web アプリケーション(.war ファイル)とその配備記述子の登場によって、専用の配備システムを維持する必要がなくなりました。

iPlanet Web Server 6.0 では、両方のタイプの配備スキーマをサポートしていましたが、4.x の実装 (古いバージョンのサーブレットと呼ばれる) は推奨されていませんでした (iPlanet Web Server, Enterprise Edition の『Programmer's Guide to Servlets』の第 8 章「Legacy Servlet and JSP Configuration」を参照)。

Sun ONE Web Server 6.1 では古いバージョンのサーブレットはサポートされません。移行するサーバーの古いスタイルのプロパティファイル servlet.properties、context.properties、および rules.properties は移行時に削除されます。

すべての機能が 1 対 1 でマッピングされているわけではないため、古いバージョンのサーブレットを自動的に移行することはできません。

4.x の古いスタイルのサーブレットを Sun ONE Web Server 6.1 の Web アプリケーション構造に移行する際に使用するマニュアルおよびサンプルについては、Sun ONE Web Server 6.1 の『Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

## 検索の移行

Sun ONE Web Server 6.1 では、Sun ONE Web Server 6.0 で使用していた検索エンジンが新しい検索エンジンに置き換えられるため、移行プロセス中に既存の検索コレクションおよびインデックスは移行されません。Sun ONE Web Server 6.1 の検索機能を使用する場合は、検索コレクションおよびインデックスを新しく作成して設定する必要があります。詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

## セキュリティ

Sun ONE Web Server では、新しいフラットファイル認証が提供され、固有のアクセス制御と Web アプリケーションのセキュリティ制約とより密接に統合されています。ただし、中核となる認証と承認のサポートは、バージョン 6.0 リリースと同じです。

ACL ベースの認証の提供を除き、Sun ONE Web Server 6.1 も J2EE 1.3 仕様で定義されたセキュリティモデルを利用して、セキュリティ保護された Java Web アプリケーションの開発と配備に役立ついくつかの機能を提供します。J2EE およびサーブレットベースのアクセス制御インフラストラクチャでは、セキュリティレルムを使用します。

Sun ONE Web Server 6.1 では、認証は Java セキュリティレルムによって行われます。Java セキュリティレルムは、`server.xml` ファイルの `AUTHREALM` エントリを使用して設定されます。配備記述子ファイル `web.xml` 内でアクセス制御規則が設定されている場合、承認はこのアクセス制御規則によって行われます。

Sun ONE Web Server 6.1 のセキュリティ関連機能の詳細については、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』および『Programmer's Guide』を参照してください。

## セッションマネージャ

Sun ONE Web Server のバージョン 6.0 リリースで推奨されていなかったシンプルセッションマネージャおよび JDBC セッションマネージャは、6.1 リリースではサポートされていません。

Sun ONE Web Server 6.1 には、次のセッション管理オプションが用意されています。

- `StandardManager`。デフォルトのセッションマネージャ
- `PersistentManager`。持続的なデータストアを使用する付属のセッションマネージャ
- `IWSSessionManager`。Sun ONE Web Server 6.0 を使用して作成したカスタムセッションマネージャとの下位互換性を保つ付属のセッションマネージャ

- **MMapSessionManager (UNIX のみ)**。メモリマップ (mmap) ファイルベースの付属の持続的なセッションマネージャ。シングルプロセスとマルチプロセスの両方のモードで動作する

Sun ONE Web Server 6.1 のセッションマネージャ API のうち、次に示す API 関数は、Sun ONE Web Server 6.1 には実装されていません。

- フォームベースのログイン。シングルサインオン用のフォームベースのログインはサポートされていません。このため、次の API は推奨されていません。
  - `GetHandleFormLoginSession`
  - `SetHandleFormLoginSession`
- `update` メソッド。バージョン 6.0 の Web サーバーで `HttpRequest` メソッド `inputstream` の呼び出し後に実行されていた `update` メソッドは現在は推奨されていません。
- セッションマネージャ監視メカニズム。Sun ONE Web Server 6.1 では、セッションマネージャの統計情報の監視はサポートされていません。このため、次の API は推奨されていません。
  - `getContext`
  - `getMaxSession`
  - `getSessionCount`
  - `getSessionReapCount`
- `SimpleSessionManager` および `JdbcSessionManager`。Web Server 6.0 では、`SimpleSessionManager` オプションと `JdbcSessionManager` オプションは推奨されていませんでしたがサポートされており、同じ機能がそれぞれ `iWSSessionManager` と `JdbcStore` を使用して実装されていました。Sun ONE Web Server 6.1 では、`SimpleSessionManager` オプションと `JdbcSessionManager` オプションはサポートされません。

セッションマネージャの詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

## 設定ファイル内のシンボリックリンク (UNIX および Linux)

サーバー設定ファイル中のシンボリックリンクまたは相対リンクは、アップグレード時に障害の原因となる場合があります。サーバールート下にあるファイルへの絶対参照を含むサーバー設定ファイルでは、常に同じ方法でサーバールートへのパスを参照します。できれば、シンボリックリンクが含まれないようにしてください。



## Web アプリケーション

Web Server のバージョン 6.0 では、Web アプリケーションに関する情報は `server.xml` ファイルと `web-apps.xml` ファイルに格納されていました。Sun ONE Web Server 6.1 では `web-apps.xml` ファイルはサポートされず、Web アプリケーションデータは次のファイルに格納されます。

- `server.xml`
- `web.xml`
- `sun-web.xml`
- `obj.conf`

Sun ONE Web Server 6.1 の `server.xml` ファイルの `vs` (仮想サーバー) 要素には、ホストしている各 Web アプリケーションの `WEBAPP` (Web アプリケーション) 要素が入ります。`WEBAPP` 要素の属性は、Web Server 6.0 で Web アプリケーションを構成するために使用されていたメカニズムと整合性があり、ダイナミックに再設定可能です。つまり、サーバーを再起動しなくても、サーバーインスタンスに変更を適用できます。

各 Web アプリケーションに、配備記述子ファイル `sun-web.xml` が `<web-application>/WEB-INF` ディレクトリに作成されます。配備記述子ファイルは、Servlet 2.3 仕様に準拠しているスキーマファイル `sun-web-app_2_3-1.dtd` に基づいています。このスキーマファイルも、`<web-application>/WEB-INF` ディレクトリに置かれています。

Web Server のバージョン 6.0 で `web-apps.xml` ファイルを使用して、取得間隔 (期限切れのセッションを確認する間隔を秒単位で指定) などの特定のサーバーパラメータを調整していた場合、Sun ONE Web Server 6.1 では、`sun-web.xml` 配備記述子を使用して同じ機能を実行します。その例を次に示します。

Web Server 6.0 の場合

```
<init-param>
  <param-name>reapInterval</param-name>
  <param-value>180</param-value>
</init-param>
```

Web Server 6.1 の場合

```
<sun-web-app>
...
  <session-config>
    <session-manager>
```

```
<manager-properties>
  <property name="reapIntervalSeconds" value="180"/>
</manager-properties>
</session-manager>
...
</session-config>
...
</sun-web-app>
```

Sun ONE Web Server 6.1 でサポートされている配備記述子ファイルの詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

## WebDAV を使用した Web パブリッシング

Sun ONE Web Server 6.1 では、WebDAV (Web Distributed Authoring and Versioning) を使用した Web パブリッシングという新しい機能が追加されました。WebDAV は、適切に多くの人々が共通に Web パブリッシングを行えるプロトコルです。

WebDAV 機能は、server.xml ファイル内の VS 要素を拡張して、DAV と DAVCOLLECTION という 2 つの新しい要素を追加することによって構成されています。

NSAPI プラグインのように WebDAV 機能をサポートするための新しい関数が obj.conf ファイルに追加されました。

WebDAV 機能の詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。obj.conf ファイル内の WebDAV 関数の詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『NSAPI Programmer's Guide』を参照してください。server.xml ファイル内の WebDAV に関連する要素の詳細は Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

# バージョン 4.1 から 6.1 への移行

この章では、Sun ONE Web Server 4.1 から 6.1 に移行する場合の変更点を理解する上で役立つ移行情報について説明します。

この章は、次の節から構成されています。

- [移行の概要](#)
- [設定値およびデータの移行](#)
- [移行されない情報](#)
- [移行に関する変更点の要約](#)

## 移行の概要

次の iPlanet Web Server 4.1 の情報を移行して、Sun ONE Web Server 6.1 で使用できます。

- ドキュメントルートおよびその他のディレクトリマッピング
- 設定スタイル情報
- ソフトウェアおよびハードウェアの仮想サーバー設定
- アクセス制御リスト (ACL) 情報
- SSL (Secure Socket Layer) 情報
- 証明書および鍵
- NSAPI 情報
- JSP (JavaServer Pages)
- シンプルセッションマネージャおよび JDBC セッションマネージャ (使用は推奨していません)

- サーバーサイド HTML (SHTML)
- SNMP (Simple Network Management Protocol) 設定 (snmp.conf ファイル)
- ファイルキャッシュの調整の設定 (nsfc.conf ファイル)

---

**注**           バージョン 4.1 よりも前の iPlanet Web Server から Sun ONE Web Server 6.1 に直接移行することはできません。その場合は、まず古いバージョンのサーバーを iPlanet Web Server 4.1 に移行してから、Sun ONE Web Server 6.1 に移行する必要があります。

---

---

**注**           通常、このドキュメントで iPlanet Web Server 4.1 について言及する場合、その情報はサービスパックリリース (iPlanet Web Server 4.1 SP12 など) にも当てはまります。

---

## 設定値およびデータの移行

---

**警告**           移行の前にすべてのサーバーインスタンスを停止してください。

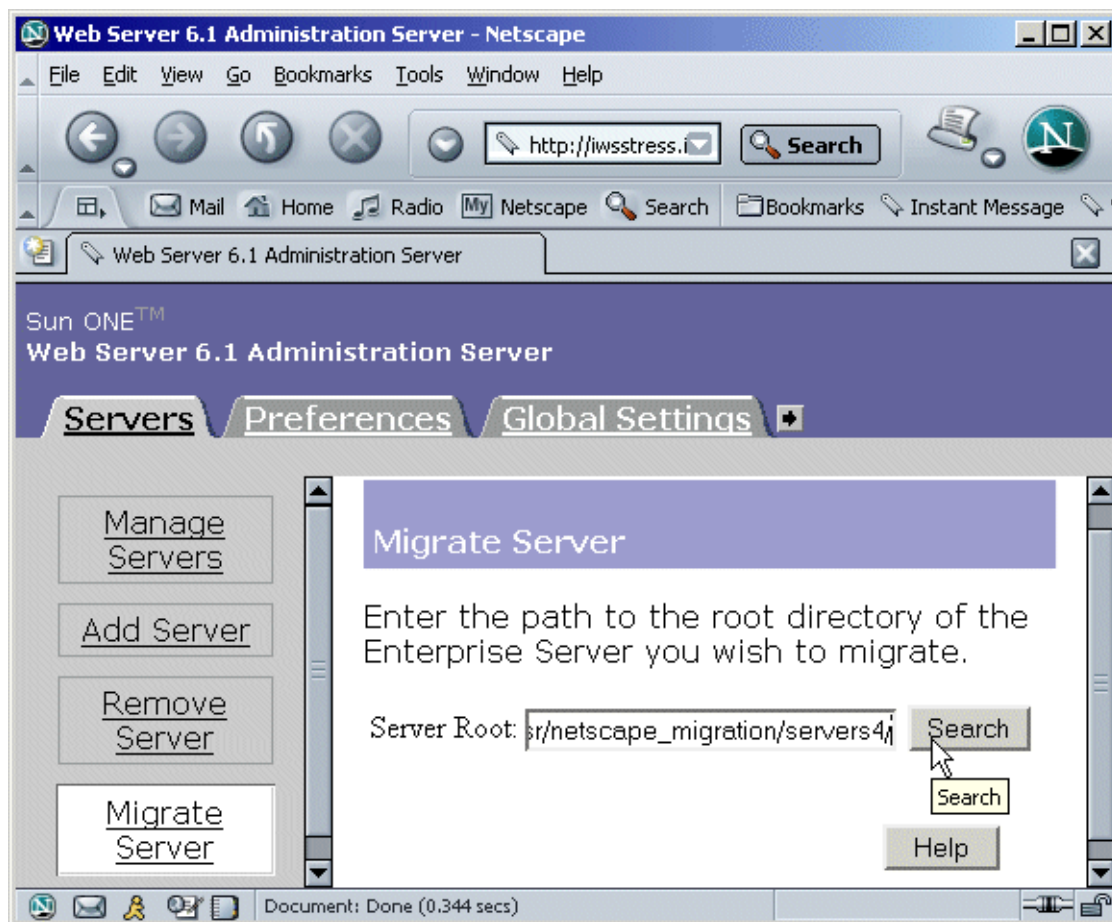
---

設定値およびデータを 4.1 サーバーから 6.1 サーバーに移行するには、次の手順に従います。

1. 「Administration Server」 ページで、「Migrate Servers」 タブをクリックします。

2. 「Migrate Server」をクリックします。

「Migrate Server」 ページ



3. 移行元サーバーのサーバールートを入力して「Search」をクリックします。その例を次に示します。

/usr/netscape/server4

C:\netscape\server4

Sun ONE Web Server は、指定したディレクトリにインストールされているサーバーインスタンスがあるかどうかを検出し、移行可能なサーバーをインストール済みサーバーのページに表示します。管理サーバーを移行することはできません。

4. ドロップダウンリストからサーバーを選択し、「Migrate」をクリックします。

移行するサーバーの選択

Servers Preferences Global Settings Users and Groups

Manage Servers

Add Server

Remove Server

Migrate Server

### Migrate Server

Enter the path to the root directory of the Enterprise Server you wish to migrate.

Server Root:  Search

### Installed Servers

Select a Server to Migrate:  Migrate

5. 新しく表示される「Migration Parameters」ウィンドウで、移行パラメータを指定します。

移行パラメータの指定

**Migration Parameters**

Server Name:

Run Server As:

**Document Root**

Please select a document root. If you do not use the old server's document root, the documents on the old server will not be visible from the migrated server. Should you wish to revert back to the old server's document root, you can always set the primary document root to the old server's document root from the Content Management tab in the Web Server Administration Server.

Document Root:  Use the same document root as the old server  
 Use the new server's document root

**Web Publishing**

WebPub is not supported in 6.1. WebDAV can be used for WebPublishing. Please refer WebDav document for further details.

**Search Collections**

6.1 has a new Search Engine (Nova). Hence search migration is not supported. Please refer Search document for details.

**Java**

Java is on by default in 4.1 and off by default in 6.1. If Java is enabled on a server

フォームに表示されるセクションは、iPlanet Web Server 4.1 で使用している機能、およびインストールしたコンポーネントによって異なります。次に、表示される可能性のあるパラメータセクションを示します。

- 一般的な移行パラメータ
- ドキュメントルート

- Java

詳細は、オンラインヘルプの「[「Migration Parameters」](#) ページ」を参照してください。

6. 「Migrate」をクリックします。

「Migrate *server\_name*」ページが表示されます。正常に移行されたパラメータおよび手動で移行する必要があるパラメータなど、移行の結果が表示されます。6.1 ではサポートされない 4.1 サーバーの機能も表示されます。



## 「Migrate server-name」 ページ

**Migrating Server Settings...** Overwriting dbswitch.conf ...  
 Assimilating ACL Files...  
 Assimilating magnus.conf...  
**Warning:** Web Publishing is no longer supported.  
**Warning:** The following paths do not exist in the new server and must be dealt with manually:

```

  /usr/netscape_migration/servers4/instance1/docdirs/dir3
  /usr/netscape_migration/servers4/instance1/docdirs/dir4
  /usr/netscape_migration/servers4/instance1/docdirs/dir2
  /usr/netscape_migration/servers4/instance1/docdirs/dir5
  /usr/netscape_migration/servers4/instance1/docdirs/dir1
  /usr/netscape_migration/servers4/instance1/docs/servlet
  /usr/netscape_migration/servers4/manual/https/ug
  /usr/netscape_migration/servers4/servlet
  /usr/netscape_migration/servers4/instance1/docs
  
```

Assimilating server.xml...  
 Assimilating Keys and Certificates...  
 Assimilating obj.conf...  
**Warning:** certmap.conf and ns-cron.conf are not migrated.  
**Warning:** old access logs are not migrated. 6.1 will have new access logs.  
 Old instance/logs/errors are migrated to new instance/logs/errors.  
 Assimilating mime.types...  
 See /space/megha/iws/61/bin/https/install/misc/mime.types for any new MIME types.  
 Assimilating snmp.conf...  
 Assimilation complete.

**Migrating Server Xml ...** Info: The JDK version in the old server configuration is not 1.4 or greater, the JDK shipped with Web Server 6.1 will be used.

**Warning:** All variables defined in VARS of server.xml have reference to 6.1 server root and 6.1 server name.

Assimilation complete.

**New server created but not started.**  
 Before starting this server, you should either stop the 4.1 server or change this server's port number.

Configure Migrated Server    Close

**注** バージョン 4.1 リリースの移行時に、magnus.conf ファイルの Address 指令も移行されますが、これは Sun ONE Web Server 6.1 では推奨されていません。このため、サーバーの起動時に次の警告メッセージが表示されます。「Warning (:): Address directive ignored.」この警告メッセージは無視してください。

7. 「Configure Migrated Server」をクリックし、移行されたサーバーインスタンスをサーバーマネージャで設定するか、「Close」をクリックして移行ウィンドウを閉じます。

## 「Migrate server-name」ページ

移行時には、発生したエラーなど、すべての移行情報を記録するページ（「Migrate server\_name」）が表示されます。iPlanet Web Server 4.1 で使用した機能で Sun ONE Web Server 6.1 ではサポートされない機能に関する警告が表示されます。移行プログラムは、obj.conf のエントリのうち、使用されなくなった機能に関するものは移行しません。

移行時に重大なエラーが発生しても、移行は続行されます。発生したエラーが結果のページに表示されるので、この情報を障害追跡に使用できます。

## 管理サーバーの移行

移行できるのは、個々のサーバーインスタンスに限られます。管理サーバーを移行することはできません。iPlanet Web Server インスタンスの移行後に、6.1 の管理サーバーで分散管理やクラスタなどの機能をもう一度設定する必要があります。

鍵および証明書も移行できます。

## ユーザーおよびグループ情報の移行

Directory Server を使用した場合、ユーザーおよびグループを移行するために移行プロセス中は何もする必要はありません。移行後に、管理サーバーの「Global Settings」タブで、「Configure Directory Service」ページを使用して Directory Server を指定できます。

## 仮想サーバーの移行

iPlanet Web Server 4.1 では、ハードウェア仮想サーバーを作成する方法が 2 つありました。object.conf ファイルを使用する方法と virtual.conf ファイルを使用する方法です。ハードウェア仮想サーバーの情報を移行する方法は、どちらの方法を使用したかによって異なります。

- object.conf ファイルを使用して iPlanet Web Server 4.1 のハードウェア仮想サーバーを作成した場合、それらのハードウェア仮想サーバーの設定値は、4.1 の obj.conf ファイルから 6.1 の server.xml ファイルに移行されます。
- virtual.conf ファイルを使用して iPlanet Web Server 4.1 のハードウェア仮想サーバーを作成した場合、それらのハードウェア仮想サーバーの設定値は、4.1 の virtual.conf ファイルから 6.1 の server.xml ファイルに移行されます。

iPlanet Web Server 4.1 ソフトウェアの仮想サーバー設定は、4.1 の obj.conf ファイルから 6.1 の server.xml ファイルに移行されます。

## ACL の移行

管理サーバー 4.1 で分散管理用に ACL を設定した場合、それらの ACL は移行されません。これらの ACL は、手動で新しい管理サーバーに追加する必要があります。

## 証明書の移行

移行プロセスにより、`4.1_server_root/alias` ディレクトリにある `key3.db` や `cert7.db` などのデータベースファイルは `6.1_server_root/alias` ディレクトリにコピーされます。

また、4.1 サーバーの `magnus.conf` ファイルにある SSL パラメータは、自動的に 6.1 の `server.xml` 設定ファイルに追加されます。

ACL 関連ファイルの `secmod.db` および `dbswitch.conf` ファイルは、移行時に上書きされます。

Sun ONE Web Server での証明書の使用については、Sun ONE Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

## アプリケーションの移行

サーバーの設定値およびデータを移行したら、Sun ONE Web Server 6.1 上で動作するようにアプリケーションにも変更を加える必要がある場合があります。

## NSAPI アプリケーションの移行

iPlanet Web Server 4.1 で使用した NSAPI プログラムのほとんどは、コンパイルし直さなくても Sun ONE Web Server 6.1 で動作します。一部のドキュメント化されていないデータ構造は、`nsapi.h` から削除され、公開されることはありません。プラグインでこれらのデータ構造を使用する場合、記述し直してアクセサ関数を使用する必要があります。現在非公開になっているデータ構造は、`nsapi_pvt.h` で定義されています。これは、情報を提供する目的でビルドに付属しています。

カスタム NSAPI プラグインは、自動的に新しいサーバーディレクトリにコピーされません。カスタムプラグインがある場合は、新しいサーバーの `magnus.conf` に示されているアップグレードされたパスにプラグインをコピーしてください。

これらのデータ構造および新しいアクセサ関数については、『Sun ONE Web Server 6.1 NSAPI Programmer's Guide』を参照してください。

## サーバーサイド Java アプレット (HttpApplet)

サーバーサイド Java アプレット (HttpApplet) はサポートされていません。代わりに、Java サブレットを使用します。サーバーサイド Java アプレットをサブレットとして記述し直してインストールし直す必要があります。

## 移行されない情報

移行プロセスでは、次の情報は移行されません。

- 4.1 スタイルの古いバージョンのサーブレット  
詳細は、[86 ページの「Java サーブレット」](#)を参照してください。
- 検索コレクションおよびインデックス  
詳細は、[88 ページの「検索」](#)を参照してください。
- 起動スクリプトおよび停止スクリプト  
詳細は、[88 ページの「起動スクリプトおよび停止スクリプト」](#)を参照してください。
- cron 制御の設定  
詳細は、[87 ページの「cron 制御」](#)を参照してください。
- 証明書マッピング  
詳細は、[87 ページの「certmap.conf ファイル」](#)を参照してください。
- WAI
- Web パブリッシング  
詳細は、[88 ページの「Web パブリッシング」](#)を参照してください。
- サーバーサイド JavaScript (SSJS)/LiveWire  
詳細は、[88 ページの「サーバーサイド JavaScript \(SSJS\)/LiveWire」](#)を参照してください。

# 移行に関する変更点の要約

iPlanet Web Server 4.1 から Sun ONE Web Server 6.1 に情報を移行すると、次の領域で変更が生じます。

- アクセスログとエラーログ
- 設定ファイル
- JSP (Java Server Pages)
- Java サブレット
- cron 制御
- certmap.conf ファイル
- シンプルセッションマネージャ
- 仮想サーバー
- Web パブリッシング
- 検索
- 起動スクリプトおよび停止スクリプト
- 設定ファイル中のシンボリックリンク (UNIX および Linux)
- サーバーサイド JavaScript (SSJS)/LiveWire

## アクセスログとエラーログ

サーバーのアクセスログファイルとエラーログファイルには、サーバーの稼動状況が記録されます。移行時には、新しいアクセスログが作成されます。4.1 の `server-instance/logs` ディレクトリのエラーログは、Sun ONE Web Server 6.1 の `server-instance/logs` ディレクトリにコピーされます。

## 設定ファイル

iPlanet Web Server 4.1 の `magnus.conf` ファイルにある指令は、Sun ONE Web Server 6.1 では `server.xml` ファイルに置かれます。移行プロセス中に、これらの指令は自動的に 6.1 サーバーの `magnus.conf` ファイルから削除され、`server.xml` ファイルに追加されます。

また、iPlanet Web Server 4.1 の `obj.conf` ファイルにある `Init` 関数は、Sun ONE Web Server 6.1 の `magnus.conf` ファイルに移されます。

推奨されていない指令のリストについては、Sun ONE Web Server 6.1 の『Administrator's Configuration File Reference』を参照してください。

---

**注** 移行時には、複数行からなる Init 指令は、1 行の指令に圧縮されて、Sun ONE Web Server 6.1 の `magnus.conf` ファイルに格納されます。

---

## JSP (Java Server Pages)

iPlanet Web Server 4.0 では、JSP (Java Server Pages) は JSP 0.92 で記述しました。iPlanet Web Server 4.1 および 6.0 では、JSP は JSP 1.2 で記述します。バージョン 0.92 は、Sun ONE Web Server 6.1 ではサポートされていません。JSP は、バージョン 1.2 標準で記述する必要があります。また、JSP は Web アプリケーションの一部として作成することをお勧めします。スタイル例は、`server_root/plugins/servlets/examples/web-apps` にあります。

Web アプリケーションの一部として JSP 1.2 で記述された JSP は、サーバーで使用可能なディレクトリならどこにでも置くことができます。

JSP 1.2 のサンプルは、`server_root/plugins/samples/servlets/jsp.10` にあります。

## Java サーブレット

Netscape Enterprise Server または iPlanet Web Server 4.0 および 4.1 は、Java Servlet 2.1 仕様をサポートしていました。この仕様には、Web アプリケーションは含まれていませんでした。サーブレットの配備を簡単に行うために、配備スキーマが開発されました。Java Web アプリケーション (`.war` ファイル) とその配備記述子の登場によって、専用の配備システムを維持する必要がなくなりました。

iPlanet Web Server 6.0 では、両方のタイプの配備スキーマをサポートしていましたが、4.x の実装 (古いバージョンのサーブレットと呼ばれる) は推奨されていませんでした (iPlanet Web Server, Enterprise Edition の『Programmer's Guide to Servlets』の第 8 章「Legacy Servlet and JSP Configuration」を参照)。

Sun ONE Web Server 6.1 では古いバージョンのサーブレットはサポートされません。移行するサーバーの古いスタイルのプロパティファイル `servlet.properties`、`context.properties`、および `rules.properties` は移行時に削除されます。

すべての機能が 1 対 1 でマッピングされているわけではないため、古いバージョンのサーブレットを自動的に移行することはできません。

4.1 の古いスタイルのサーブレットを Web アプリケーション構造に移行する際に使用するマニュアルおよびサンプルについては、Sun ONE Web Server 6.1 の『Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

## cron 制御

Sun ONE Web Server 6.1 では、cron ファイルの名前が変更されました。Sun ONE Web Server 6.1 では、`ns-cron.conf` ファイルが `schedulerd.conf` に変わり、`cron.conf` ファイルが `scheduler.conf` に変わりました。これらのファイルは、`https-admserv/config` ディレクトリに格納されています。

移行時には、以前のバージョンの Web サーバーの cron 設定は Sun ONE Web Server 6.1 に移行されません。このため、移行されたインスタンスの cron 設定をこれらの cron ファイルにコピーしてください。

## certmap.conf ファイル

移行プロセス中に、証明書マッピングファイル `certmap.conf` は移行されません。移行時に、移行するサーバーインスタンスの `certmap.conf` の既存のエントリを手動で移行する必要があることを示すメッセージが表示されます。

## シンプルセッションマネージャ

シンプルセッションマネージャおよび JDBC セッションマネージャは、Sun ONE Web Server 6.1 ではサポートされていません。セッションマネージャの詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。

iPlanet Web Server 4.1 の Web アプリケーションで `SimpleSessionManager` が指定されている場合は、クラスの名前を `IWSSessionManager` に変更する必要があります。これにより、持続性を強化できます。`Persistence-type` は、`s1ws60` に設定する必要があります。`timeOut` や `reapInterval` など、ほかの `Init` 属性は変更されません。

iPlanet Web Server 4.1 の Web アプリケーションで `JDBCSessionManager` が指定されている場合は、クラスの名前を `IWSSessionManager` に変更して、次の属性をセッションマネージャの `init-param` 要素に追加する必要があります。

```
session-data-store='com.netscape.server.http.session.JdbcStore'。
```

`Persistence-type` は、`s1ws60` に設定する必要があります。

`provider` や `url` など、ほかの属性は変更されません。

`MMapSessionManager` のパッケージ名は、Web Server のバージョン 4.1 の `com.netscape.server.http.session` から、バージョン 6.0 および 6.1 では `com.iplanet.server.http.session` に変更されました。

## 仮想サーバー

iPlanet Web Server 4.1 では、ハードウェアおよびソフトウェアの仮想サーバーを使用して複数のサーバーインスタンスを作成できましたが、これらのインスタンスでは同じ設定情報を共有する必要がありました。Sun ONE Web Server 6.1 では、仮想サーバーのクラスを複数設定できます。各クラスには、それぞれ個別の設定情報があります。

仮想サーバーの設定値は、`server_root/server_ID/config` ディレクトリにある `server.xml` ファイルに格納されています。仮想サーバーについては、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

## Web パブリッシング

Sun ONE Web Server 6.1 では、iPlanet Web Server 4.1 の Web パブリッシング機能はサポートされていません。その代わりに、Web 上での共同作業が可能になるファイルの共有やオーサリング機能を使用できる WebDAV という新しい機能が追加されました。WebDAV については、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

## 検索

Sun ONE Web Server 6.1 では、iPlanet Web Server 4.1 で使用していた検索エンジンが新しい検索エンジンに置き換えられるため、移行プロセス中に既存の検索コレクションおよびインデックスは移行されません。Sun ONE Web Server 6.1 の検索機能を使用する場合は、検索コレクションおよびインデックスを新しく作成して設定する必要があります。詳細は、Sun ONE Web Server 6.1 の『管理者ガイド』を参照してください。

## 起動スクリプトおよび停止スクリプト

4.1 サーバーの起動スクリプトまたは停止スクリプトを修正した場合、その変更内容は移行プログラムでは移行されません。reconfig、restart、および rotate の各スクリプトについても同様です。

## 設定ファイル中のシンボリックリンク (UNIX および Linux)

サーバー設定ファイル中のシンボリックリンクまたは相対リンクは、アップグレード時に障害の原因となる場合があります。サーバールート下にあるファイルへの絶対参照を含むサーバー設定ファイルでは、常に同じ方法でサーバールートへのパスを参照します。できれば、シンボリックリンクが含まれないようにしてください。

## サーバーサイド JavaScript (SSJS)/LiveWire

SSJS/Livewire を使用するアプリケーションのデータおよび設定値は移行されません。



SSJS アプリケーションを JSP に変換する方法の補足説明については、Sun ONE Web Server 6.1 の『Programmer's Guide to Web Applications』を参照してください。また、変換したアプリケーションのサンプルは `server_root/plugins/samples/servlets/jsp.10/hangman` にあります。

## 移行に関する変更点の要約

# 索引

## 数字

4.x スタイルの古いバージョンのサーブレット, 62

## A

ACL、移行, 83

## C

CNAME、DNS, 21

context.properties, 68

## D

DAV, 74

DAVCOLLECTION, 74

## H

HTTP Java アプレット、移行, 83

## I

install.inf, 39

IWSSessionManager, 71, 87

## J

Java アプレット、移行, 83

Java サーブレット、移行, 86

JDBCSessionManager, 87

JDBC のサポート, 14

JDK (Java Development Kit) バージョン 1.41, 69

JDK コンポーネント, 31, 48

JNDI のサポート, 14

JSP092 オブジェクト, 70

JSP 1.2 のサポート, 13

JSP (Java Server Pages)、4.0 からの移行, 70, 86

jvm12.conf, 68

## L

Linux ユーザーアカウント, 22

LocalSystem ユーザーアカウント, 23

## M

「Migration Parameters」 ページの図, 61, 79  
MMapSessionManager, 87  
MMapSessionManager (UNIX のみ), 72

## N

nobody ユーザーアカウント, 22  
NSAPI アプリケーション、移行, 83  
NSAPI フィルタ, 14  
NSPR 4.1.5, 15  
NSS 3.3.5, 15

## P

PersistentManager, 71  
PHP のサポート, 16

## R

rules.properties, 68

## S

Servlet 2.3 のサポート, 13  
servlet.properties, 68  
setup の実行  
    UNIX, 30  
    Windows, 46  
StandardManager, 71  
start-jvm, 68  
Sun ONE ASP のサポート, 15  
Sun ONE Studio プラグインのサポート, 15  
Sun ONE Web Server 6.1 の新機能, 13  
sun-web.xml, 73

## T

template.inf, 36

## U

UNIX へのインストール, 27  
UNIX ユーザーアカウント, 22

## W

WAI, 84  
web-apps.xml, 68, 73  
web-apps.xml.clfilter, 68  
WebDAV, 74  
WebDAV のサポート, 14  
Web アプリケーション, 73

## あ

圧縮のサポート, 14  
アンインストール  
    UNIX, 43  
    Windows, 55

## い

移行  
    4.1 の設定ファイル, 85  
    ACL, 83  
    iPlanet web Server 4.1 より前のバージョンから,  
        25  
    iPlanet Web Server 4.1 から, 25  
        4.1 スタイルの古いバージョンのサーブレット,  
            84  
        6.1 での変更点の要約, 85  
    ACL の移行, 83  
    certmap.conf, 87

- cron 制御, 87
  - cron 制御の設定, 84, 87
  - HTTP Java アプレット, 83
  - JSP, 86
  - WAI, 84
  - Web パブリッシング, 84, 88
  - アプリケーションの移行, 83
  - 移行されない情報, 84
  - 仮想サーバーの移行, 82, 88
  - 管理サーバーの移行, 82
  - 起動スクリプトおよび停止スクリプト, 84
  - 起動スクリプトおよび停止スクリプトの移行, 88
  - 検索, 88
  - 検索コレクションおよびインデックス, 84
  - サーバー移行ページ, 82
  - サーバーサイド JavaScript (SSJS)/LiveWire, 84, 88
  - サーブレット, 86
  - 証明書マッピング, 84
  - シンプルセッションマネージャ, 87
  - シンボリックリンク, 72, 88
  - 設定値およびデータ, 76
  - 設定ファイル, 85
  - ユーザーおよびグループ情報の移行, 82
  - iPlanet Web Server 6.0 およびサービスパックから, 57
  - iPlanet Web Server 6.0 から
    - cgistub ディレクトリ, 63
    - cron 制御, 69
    - cron 制御の設定, 62
    - Java の移行, 69
    - 移行されない情報, 62
    - 移行時に削除される設定ファイル, 68
    - 概要, 57
    - 検索コレクションおよびインデックス, 62
    - コマンド行スクリプト, 62
    - 証明書マッピング, 62
    - セッションマネージャ, 62, 71
    - 接続グループ, 62, 68
    - 設定値およびデータ, 58
    - 設定ファイル, 64
      - ACL ファイル, 65
      - certmap.conf, 65
      - \*.clfilter ファイル, 67
      - dbswitch.conf, 65
      - magnus.conf, 66
      - mime.types, 66
      - nsfc.conf, 66
      - obj.conf, 67
      - server.xml, 67
  - iPlanet Web Server から
    - 検索, 71
  - Web サーバーの変更点, 76
  - アプリケーション, 83
  - 概要, 57
  - 仮想サーバー, 88
  - 証明書, 83
  - インストール
    - JDK, 31, 48
    - UNIX, 27
      - アンインストール, 43
      - 高速インストール (Express installation), 33
      - 標準インストール (Typical installation) またはカスタムインストール (Custom installation), 30
  - Windows
    - アンインストール, 55
  - 概要, 24
  - 準備, 17
  - スクリプトの使用, 39, 52
  - ダウンロードしたサーバー, 29, 46
  - 必要なユーザーアカウント, 27
  - 複数のマシンへの, 36
- ## か
- 仮想サーバー, 82
  - 仮想サーバー、移行, 88
  - 仮想サーバーの移行, 82
  - 管理インタフェース
    - 関連情報, 10
- ## き
- 技術的要件, 21
  - 起動スクリプト、移行, 64, 88

## け

検索エンジン, 15

## さ

サーバー、削除, 43, 55

サーバーのユーザーアカウント, 22

サーバー名

    CNAME, 21

    エイリアス, 21

    変更, 21

サブレット、移行, 86

サイレントインストール, 36, 39, 52

サポートされているプラットフォーム, 17

## し

承認, 71

証明書、移行, 83

シンプルセッションマネージャ, 87

シンボリックリンク, 72, 88

## す

推奨されていない API 関数, 72

    getContext, 72

    getHandleFormLoginSession, 72

    getMaxSession, 72

    getSessionCount, 72

    getSessionReapCount, 72

    SimpleSessionManager および

        JdbcSessionManager, 72

    update メソッド, 72

    セッションマネージャ監視メカニズム, 72

## せ

セキュリティ

    Sun ONE Web Server 6.1 の拡張機能, 13, 71

セキュリティの強化, 13

セッション管理オプション, 71

## そ

ソフトウェア要件, 20

## て

停止スクリプト、移行, 64, 88

適正なユーザーでのログイン, 27

テンプレートインストール, 36

## に

認証, 71

## は

ハードウェアアクセラレータによる暗号化のサポート, 16

ハードウェア要件, 20

    UNIX, 20

    Windows, 20

配備記述子ファイル, 73

## ふ

ファイルの展開

    UNIX, 28

    Windows, 46

フォームベースのログイン, 72

プラットフォーム、サポートされている, 17

## ほ

ポート番号, 23

## ゆ

ユーザーアカウント

LocalSystem, 23

nobody, 22

Windows, 23

